

## 「みやぎ学力状況調査」 導入後の効果等について

## 1 実施前の状況

- ・学力低下の指摘，進学率低下の指摘
- ・仙台市周辺と他地域との学力格差の指摘
- ・特色化，多様化への変革の中で学力向上の必要性の指摘

## 2 導入時のねらい

- ・各教科の全県的な学力状況の把握
- ・学習に関する意識状況の把握
- ・義務教育段階の定着度も確認

## 3 実施方法の変革

年度	学力調査						質問紙調査	
	1年生			2年生			1年	2年
	国語	数学	英語	国語	数学	英語		
H15	※	※	※				○	×
H16	※	※	※				○	×
H17	○	○	○				○	×
H18	○	○	△				○	×
H19	○	○	△				○	○
H20	○	○	△				○	○
H21	○	○	○				○	○
H22				○	○	○	○	○
H23				○	○	○	○	○
H24				●	●	●	●	●

※ 学校別に，国語，数学，英語のいずれか1教科を実施

○ 調査問題，質問紙調査とも県教委が作成（マークシート方式）

△ 宮城版英検として実施（業者作成問題）

● 〈復興教育支援事業〉＝東日本大震災後の教育における復興状況の把握・検証

- ・問題別学力層別分析，学力調査，意識調査のクロス集計が可能なシステムの導入
- ・質問紙による意識調査を学習関係・生活全般・「志教育」の3領域で実施

## 4 成果

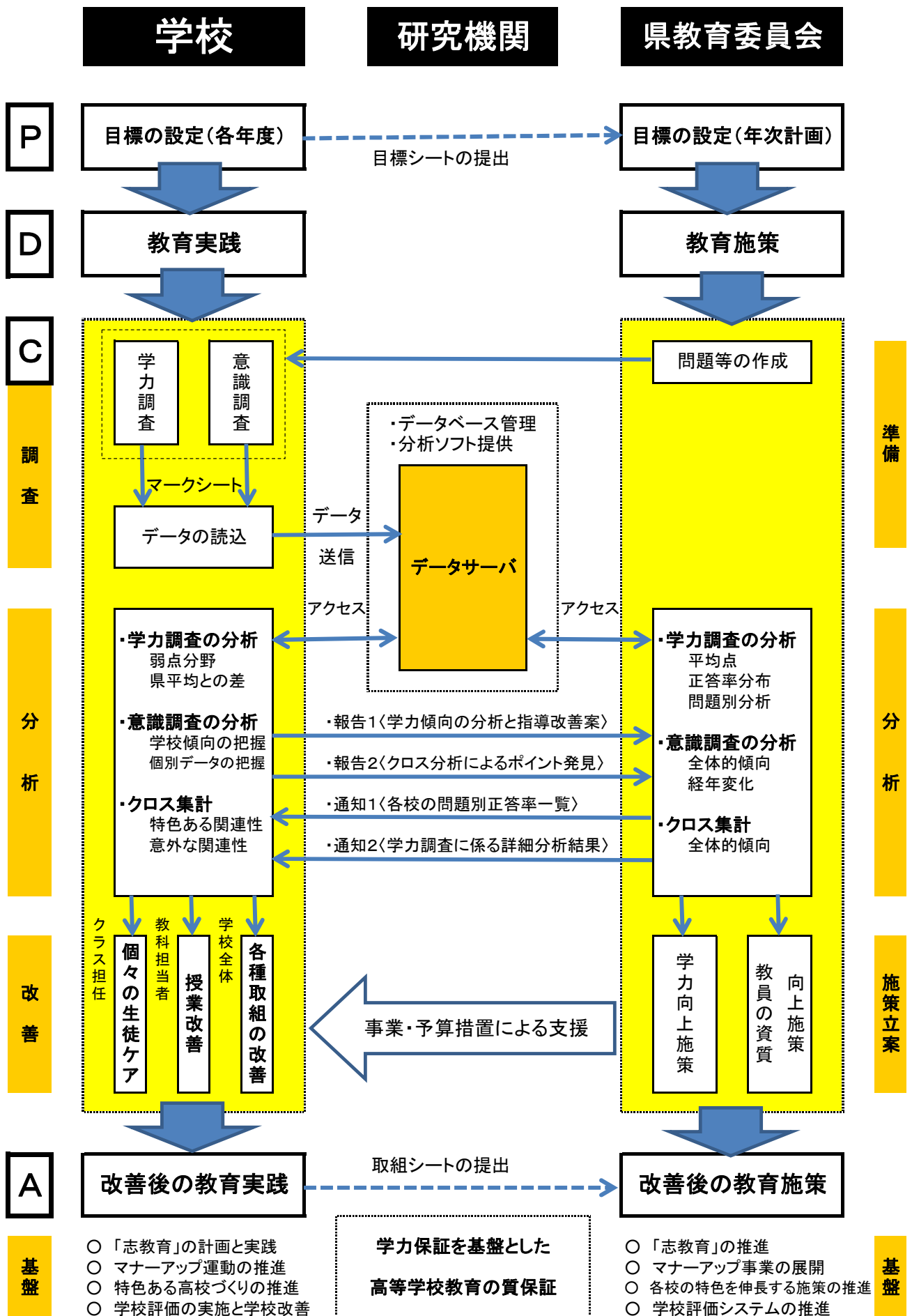
- ・学力に関する全県的傾向，各校個別の傾向学習状況と学力の関係性が把握できる
- ・各校の改善方策立案，県の学力向上施策立案に役立てることができる
- ・「志教育」の導入と展開，授業改善への取組「学び直し」の教育実践の工夫 など

## 5 課題

- ・各校の学力格差が大きく，共通問題での実施が困難
- ・各校が課題解決に向け様々な対策を講ずるも，課題は完全には解消せず
- ・確かな学力を保証するためには，学校教育全体の質保証を図ることが必要

「みやぎ学力状況調査」の  
実施フローとPDCAサイクル

- 成果指標  
・家庭学習時間  
・授業理解度



# 〈宮城県学力向上推進プログラム・平成24年3月改訂〉

## (3) 高等学校における目標

【目 標】(目標年度：平成28年度)

○「授業がわかる」と答える生徒の割合(%)

- ・高校2年生 50.0% 【本県の現状 45.0%(H23みやぎ学力状況調査)】

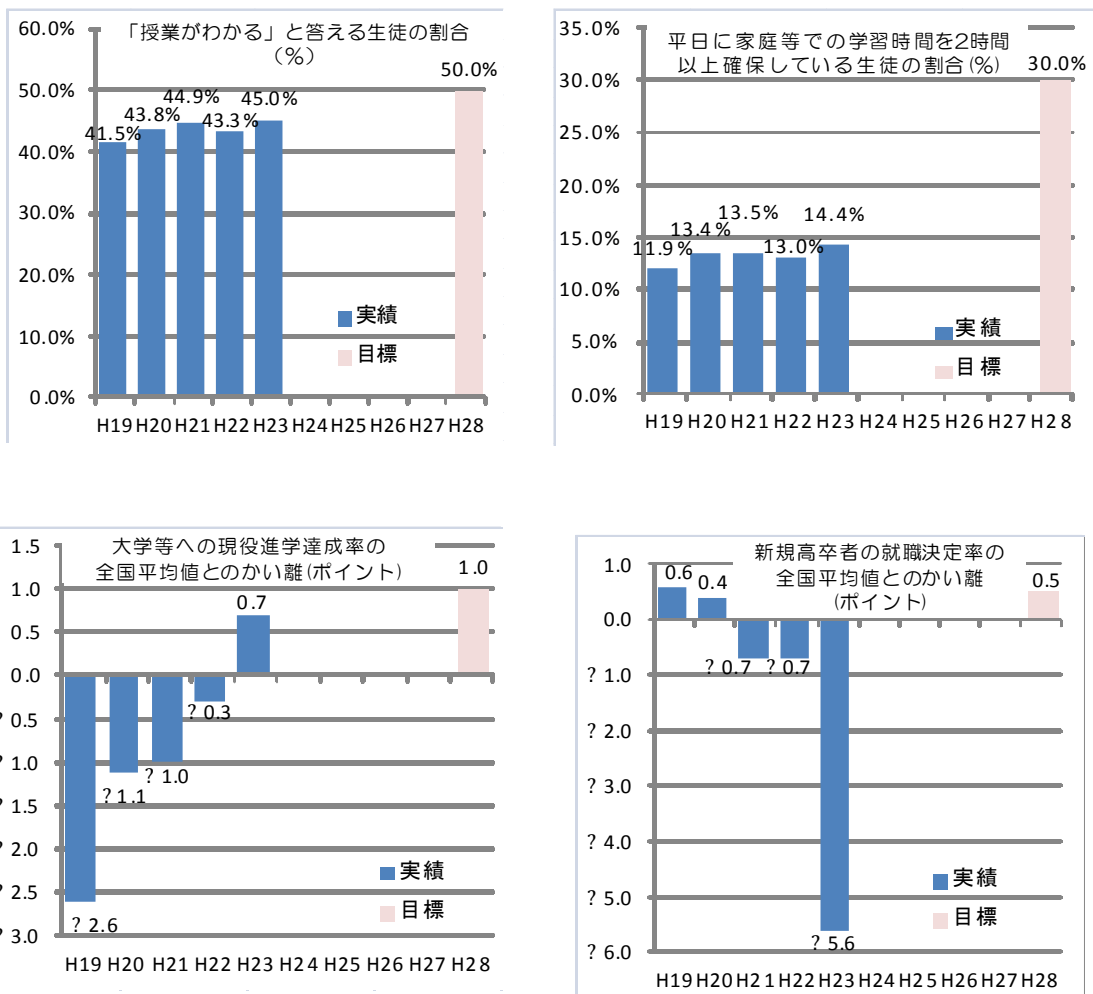
○平日に家庭等での学習時間を確保している生徒の割合(%)

- ・学習時間2時間以上の生徒(高2)の割合 30.0%【本県の現状 14.4%(H23みやぎ学力状況調査)】

○高校生の進路の達成

- ・大学等への現役進学達成率の全国平均値とのかい離 +1.0ポイント  
【本県の現状 +0.7ポイント(平成23年3月)】
- ・新規高卒者の就職決定率の全国平均値とのかい離 +0.5ポイント  
【本県の現状 -5.6ポイント(平成23年3月)】

(図8) 高等学校の目標指標の推移(高校2年生/進路)



一太郎

# 平成24年度 県立高等学校における学力向上の目標シート(改訂版)

※【対象：全日制課程の高校】

学校名 \_\_\_\_\_ 高等学校

(担当者職・氏名 \_\_\_\_\_ )

## I 各学校の目標設定と達成に向けた取組

### 1 目指す生徒像や特に注力して育てたい能力(学力向上にかかる重点目標)

### 2 1の具体化に向けた取組(成果目標・活動目標)

取組の結果と要因 (評価)	
------------------	--

## II 県の目標達成に向けた取組

### 1 授業理解度(「授業が分かる」と答える生徒の割合) \*数値はみやぎ学力状況調査を使用。 (「ほとんどの授業がよく理解できる」と「理解できる授業の方が多」を合わせた割合の数値)

現状	(前年度数値)		成果 目標	(目標数値)		実績	(今年度の数値)	
	1年	%		1年	%		1年	%
	2年	%		2年	%		2年	%
活動目標(具体的な取組)				取組の結果と要因(評価)				

※「現状」の数値は前年度のみやぎ学力状況調査結果における貴校の数値を記入のこと。

### 2 家庭学習時間 全くまたはほとんどしない生徒の割合を除き平日に家庭等での学習時間を確保している生徒の割合。また、2時間以上学習時間を確保している割合を( )記入する。

現状	(前年度数値)		成果 目標	(目標数値)		実績	(今年度の数値)	
	1年	%		1年	%		1年	%
	( )	( )		( )	( )		( )	( )
	2年	%		2年	%		2年	%
	( )	( )		( )	( )		( )	( )
活動目標(具体的な取組)				取組の結果と要因(評価)				

※「現状」の数値は前年度のみやぎ学力状況調査結果における貴校の数値を記入のこと。

## III 評価と来年度に向けた取組

\*評価方法はS~Dの5段階総合評価とする。

評 価	来年度に向けた改善点

## 平成24年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」の結果について

1	目 的	生徒の学力状況と学習，生活，「志教育」に関する意識等について調査分析し，各学校における学習指導の取組，本県の学力向上施策の改善に役立てる。
2	調査項目	学力調査（国語，数学，英語）： 2 学年 意識調査（質問紙調査）： 1・2 学年
3	調査対象	公立（県立，仙台市立，石巻市立）高校 1 年生 約 15,200 人，2 年生約 15,100 人
4	実施期間	平成 24 年 7 月 5 日（木）～ 7 月 13 日（金）

※（ ）内は前年度の正答率

5 学力状況調査結果の主な特徴（2 学年）		正答率
国語	<p>○基本的知識は身に付いているが，それらを活用して文意を把握する力が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活レベルの語彙力については，ある程度身に付いている。</li> <li>・文章の展開を踏まえて抽象的な表現を解釈し，文章全体の要旨を的確に捉える力を問う問題の正答率は低い。</li> </ul>	54.2 (37.8)
数学	<p>○基礎・基本の定着度は上昇，複数の条件を組み合わせて思考する力に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な公式や定理をそのまま用いて答えを求める力は身に付きつつある。</li> <li>・グラフや図形から条件を読み取る力，条件からグラフなどをかいて思考する力，複数の条件を組み合わせて問題を解く力に課題がある。</li> </ul>	48.7 (45.3)
英語	<p>○リスニング能力は定着，長文からの情報を抽出する力に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準的な英語表現を聞き取る力は定着してる。</li> <li>・基本語句を活用する力が不足している。それに付随して，長文を読み事実や情報を見つけ出す力や，筆者の考えや意見を見つけ出す力を問う問題の正答率が低い。</li> </ul>	41.2 (39.2)

6 意識調査結果の主な特徴（1 学年・2 学年）	
学 習	<p>○平日 1 日 2 時間以上学習する生徒の割合は 1 学年が 18%，2 学年が 13%前後で横ばい</p> <p>○ほぼ毎日学習する生徒は昨年（1 年時）の 20.8%から 15.2%に大幅減</p> <p>○授業が概ね理解できるとする生徒の割合は 1 年生は引き続き 50%を超えたが，2 年生は減少</p> <p>○家庭学習での悩みは「集中できない」。集中できない原因は，テレビ，携帯電話，パソコン等のディスプレイものに費やす時間が多すぎる</p>
生 活	<p>○概ね 7～8 割の生徒が安定的な生活を送っている</p> <p>○学校生活に集中できない，心が安定しない等，心配な要因を抱えている生徒が 2 割</p> <p>○勉強に集中できるのは 5 割，部活に集中できるのは 7～8 割</p>
志 教 育	<p>○「志教育」の 3 つの視点に関する意識については概ね 7～8 割の生徒が良好な状況</p> <p>○挑戦しようとする意欲，情報発信の自信などは若干低い傾向（6 割）</p> <p>○2 年生の方が意欲を示す数値の減少が見られ，モチベーションの低下が懸念される</p>

7 学力向上に向けた今後の取組			
各 学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の推進</li> <li>○家庭学習時間の確保</li> <li>○「志教育」の推進，多様な学習機会の提供</li> <li>○家庭と学校との連携</li> </ul>	県 教 委	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全県的な学力傾向の把握</li> <li>○学力向上施策の推進</li> <li>○教員の資質向上</li> <li>○新学習指導要領の趣旨の周知</li> </ul>



# I 調査の概要等

## 第1学年

- (1) 第1学年における生徒の学習状況及び心の有り様並びに志教育に関する意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の79校の1年生、約15,200人を対象に、平成24年7月5日（木）から7月13日（金）までの間、各学校で実施（仙台市立は昨年度より実施）

### 質問紙調査

生徒の学習・生活・「志教育」に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,842人(回収率 約98%)

## 第2学年

- (1) 学習指導要領に示された指導内容の定着状況と、第2学年における生徒の学習状況及び心の有り様並びに志教育に関する意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の79校の1年生、約15,100人を対象に、平成24年7月5日（木）から7月13日（金）までの間、各学校で実施（仙台市立は昨年度より実施）

### ①学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語、数学、英語の3教科の学力状況調査
- ・国語、数学、英語の作問に当たっては、高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し、平均正答率を50%と設定して作成
- ・国語、数学、英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定  
※学校選択型A問題（A問題）は基礎的・基本的な内容の設問  
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕

国語 14,575人（A問題選択57校7,050人、B問題選択32校7,525人）

数学 14,570人（A問題選択64校8,601人、B問題選択25校5,969人）

英語 14,554人（A問題選択63校8,478人、B問題選択26校6,076人）

※学校数は全日制本校74校、定時制11校、分校3校、岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89校として集計した。

### ②質問紙調査

生徒の学習・生活・「志教育」に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,586人(回収率 約96%)

## Ⅱ 調査結果の概要と分析

### 1 2学年学力状況調査の教科別結果

#### 国語

共通問題正答率は、54.2%（前年度37.8%）

- 基本的知識は身に付いているが、それらを活用して文意を把握する力が不足

言語事項に関する設問のうち、日常生活レベルの語彙や表現を問うものについては概ね良好な結果であるが、主に文章表現において用いられる言葉について問うものについては正答率が低い。また、抽象的な表現を具体的なものとして捉え直し、文意の把握につなげる力が不足している。古文・漢文については、ともに基礎的・基本的な知識はある程度身に付いているが、それらの知識を活用して文脈を推測し、全体の理解へとつなげていく力は不足している。

#### 数学

共通問題正答率は、48.7%（前年度45.3%）

- 文字式の計算・三角比等の基礎事項の定着度は上昇したが、複数の条件を組み合わせて思考する力が不足

基礎・基本の定着については、「方程式と不等式（数と式、二次方程式、二次不等式）」や「図形と計量」の分野で一定の定着が見られるものの、指数計算の正確性、絶対値記号の意味理解には課題が残る。また、「二次関数」については、グラフの概形をかいて問題の状況を分析することが十分に行えていない。読み取った情報を組み合わせた上で、思考し計算する問題の正答率が低く、与えられた条件から適切な公式や定理を選択し、複数の手順を経て解答する問題を解く力が不足している。

#### 英語

共通問題正答率は、41.2%（前年度39.2%）

- リスニングにおいて高い理解力を認めるも、基本語句の知識定着に課題がある

リスニング問題の正答率は高い。しかし、文法事項を問う問題では基本語句を活用する力が不足している。それに付随して、長文を読み事実や情報を見つけ出す力や、筆者の考えや意見を見いだす力を問う問題の正答率が低い。また、整序問題は一定の正答率を残しており、英文を構成する力は認められる。

#### 〈各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要〉

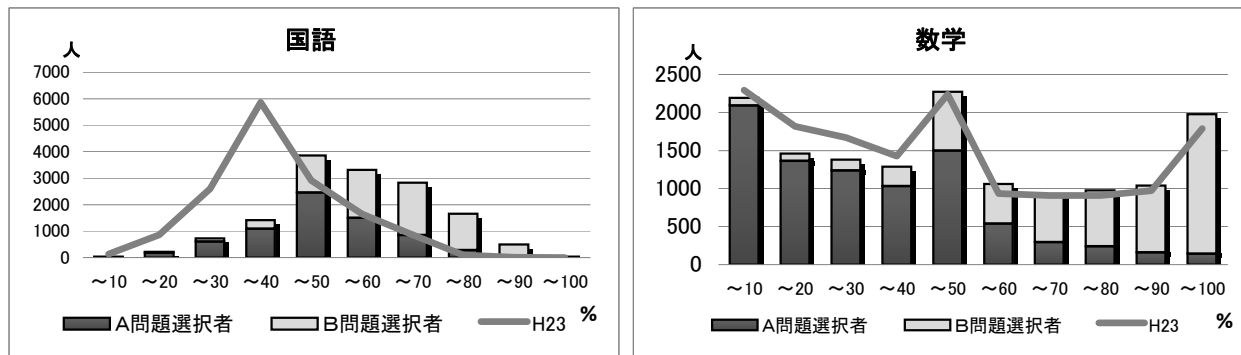
※学校数は全日制本校74校、定時制11校、分校3校、岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89校として集計した。

教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	57	32	64	25	63	26
調査人数	7,050	7,525	8,601	5,969	8,478	6,076
共通問題部分の正答率	47.4 (32.5)	60.6 (43.6)	31.6 (27.1)	71.8 (69.3)	31.7 (31.3)	54.5 (50.6)
A・B選択者別の全体正答率	47.4 (32.5)	56.9 (41.2)	23.9 (22.0)	54.2 (48.6)	30.9 (30.6)	51.8 (48.4)

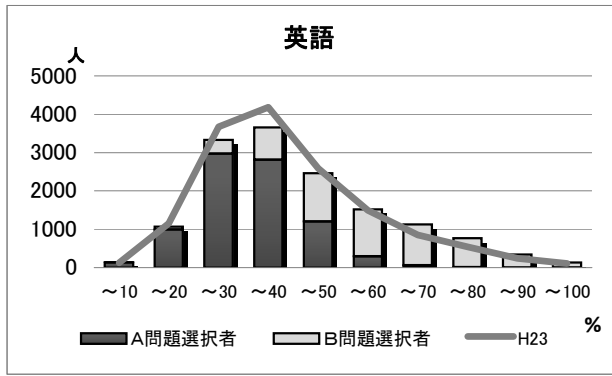
※（ ）内は前年度の正答率

図1-1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの



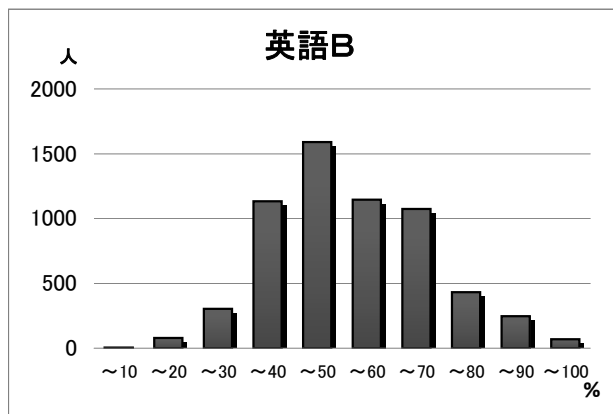
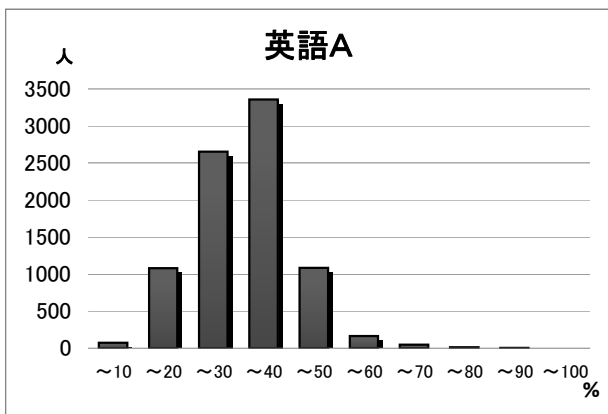
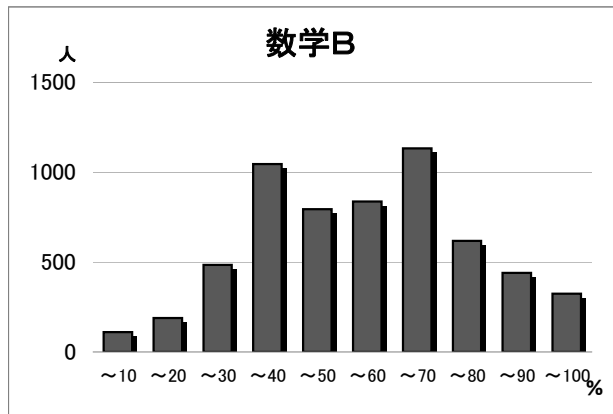
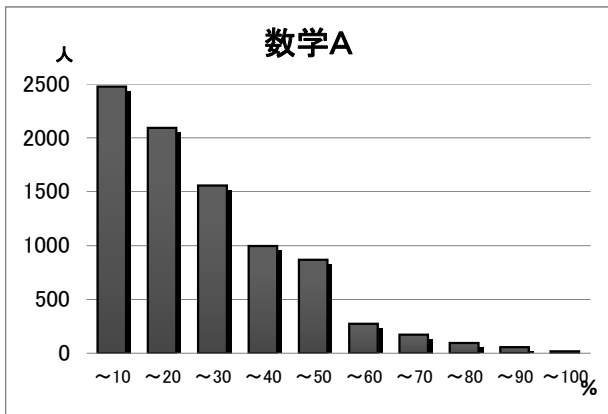
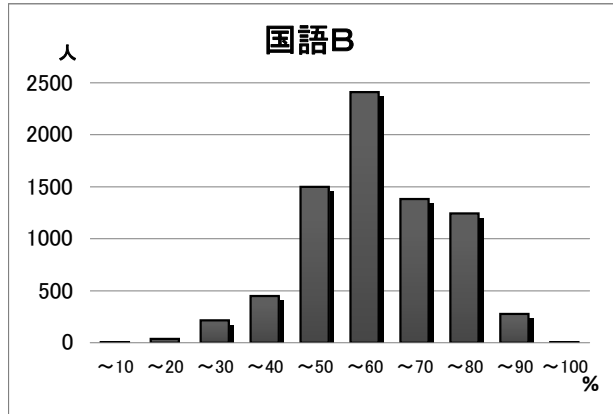
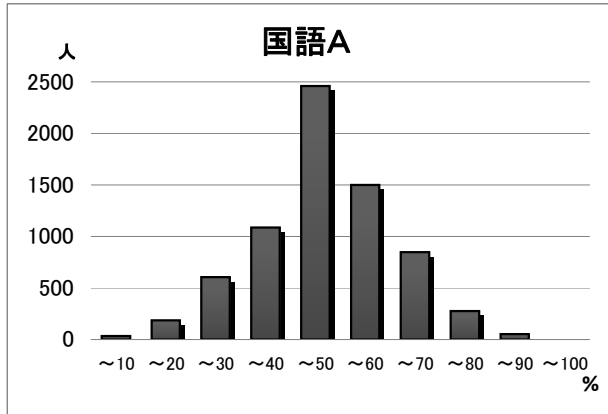




〈分析〉

- 国語は正答率が上昇した。これは、慣用句や口語で使用される表現について問い、定着度が良好であったことによる。一方、文法事項の定着には課題が見られる。
- 数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、1年次に学習した基礎・基本の定着度に分野別ごとのばらつきがあることが原因と考えられる。
- 英語の分布も分散が大きい傾向があり、正答率に広がりが見られる。これは、動詞に関する知識の定着度や英語特有の表現に関する理解の定着度にばらつきがあることが原因と考えられる。
- 3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な力がある程度身に付いていると考えられる。

図1-2 A問題, B問題別の正答率度数分布  
各教科における共通問題部分を含めた全問題正答率の度数分布



## 2 2 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

### 国語

◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができている。 ◆…課題がある。)

◇日常生活で触れる機会が多い語に関する問題ほど正答率が高い。慣用句についての基礎的な知識は身に付いている。

◆文章語として用いられる漢字の書き取りや読み方になると正答率が大きく下がってしまう。

◆口語文法や敬語表現の理解、日本語の適切な使い方については十分でない。

⇒ **課題 1：中学校までに学習した言語に関する知識や理解を系統的に深めるとともに、社会人として必要となる言語能力を身に付けるための機会を確保することが急務である。**

◇論理的な文章では、文脈を踏まえて内容を理解するように努めている。

◆論理的な文章では、具体例を基に、抽象的に表現された筆者の主張を読み取る力が不足している。

◆文学的な文章では、表現の特徴にも注意しながら、叙述に即して本文の内容を捉える力が不足している。

⇒ **課題 2：文章の構成を踏まえ、抽象的な表現から書かれている内容を的確に読み取り、適切な表現でまとめる力が求められる。**

◇基本となる語句や文法・句法など、既習の知識は身に付いてきている。

◆敬語や重要な句形の理解・定着が不十分である。

◆細部の情報を基に、文脈をつかみながら内容を的確に読み取る力が身に付いていない。

⇒ **課題 3：古典に親しむ態度を育成し、既習知識を活用しながら、自分の力で読み解いていくことの楽しさに気づかせるような指導の工夫が求められる。**



◎改善の方向

①社会で必要となる基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、授業の中で言語事項を扱う機会を設定するとともに、学校図書館とも連携しながら読書指導を進める。言語事項に関する知識を活用することで思考力や表現力の向上につながるような授業展開を工夫する。

・漢字については、正確な知識の習得を目指すとともに、日頃から多様な文章に触れさせ、それらを活用する場面を確保する。

・ことわざや慣用句については、意味や用例を理解させ、実際に活用する場面を設定して具体的なイメージの備わった知識として定着させる。

・敬語については、その成り立ちと社会生活における意義を理解させた上で、状況に応じて適切に用いる能力を育成する。

②論理的な文章では、具体例が持つ意味や言い換えの表現等に着目し、論理展開を把握しながら要旨を的確に読み取る力が育成できるよう工夫する。また、文学的な文章では、情景や心情などを表現に即して読み味わう姿勢を育成するとともに、登場人物の心情の変化を読み取る力を身に付けるための指導の工夫を図る。

・文章を恣意的に読むのではなく、根拠となる表現に基づく客観的視点から文章全体を意味付けしていく力と、内容を適切にまとめる力を身に付けさせることが必要である。

・本文のみならず、問題文やその選択肢についても、書かれてある意図を意識して、丁寧に読む姿勢を身に付けさせる。

・文学的な文章では、登場人物の行動描写や会話部分に着目させる。その際、段落相互の関係を踏まえることで主題を把握させ、作品の読み取りが深化するように工夫する。

③古典に親しみをもたせ、古典を学ぶ意欲を高めることで、基礎的・基本的知識の定着を図り、作品をより深く味わうことができるような指導の工夫を図る。

・古典常識や基本的な語句、文法・句法の知識の充実を図るとともに、既習知識を活用して読解に結びつけるような場面を設定する。

・文法事項の指導のみに終始することなく、現代語訳を適宜利用するなどして内容のおもしろさを実感させる。

・目的を持ったグループ活動などを取り入れ、教師主導型の授業ではなく、生徒の主体的な読みを喚起するような指導の工夫を図る。

・音読や暗誦によって作品のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

## 数学

### ◎分析と課題

(◇…相当数の生徒ができています。 ◆…課題がある。)

◇「方程式と不等式（数と式，二次方程式，二次不等式等）」，「図形と計量」の基礎・基本については，当該設問の正答率が高いことから，一定の定着が見られる。

◆複数の基本事項を組み合わせて処理する問題や，定理の活用法を思考・選択することが必要な問題，絶対値や二次関数を扱った問題は，正答率が低い（あるいは低下している）。

⇒ **課題 1**：授業や家庭学習において，基礎・基本の定着が，知識の習得・技能の習熟に偏っている。

◇文章から条件を読み取り一次不等式を立式し，その解を求める問題では正答率が高い。

◆数学の内容を活用する場面で，複数の視点から問題の分析を行い，必要な情報を見つける問題では正答率が低い。

⇒ **課題 2**：数学を活用する場面で，その有用性に気付くことができず，問題の本質が何なのかを見つけたり，複数の視点から問題を考察したりする力が不足している。

◆段階を踏み，複数の知識・技能を順序よく用いる問題の正答率が低い。

◆立式はできるが，得られた解の適切さを吟味する力の定着が不十分であることが窺える。

⇒ **課題 3**：基本的な概念や原理・法則を理解したり，論理的に思考したりする機会としての数学的活動が少ないために，公式や定理を活用する力や得られた結果を吟味する力が身に付いていない。

◆グラフから情報を読み取ること，グラフを活用して変化の様子を考察すること等について，理解や習熟に課題があることが窺える。

◆問題に用いられている用語の意味を正確に読み取り，正しく活用する力が不十分であることが窺える。

⇒ **課題 4**：文章や式，グラフ等から必要な情報を読み取り，それを活用する力や，数学の用語や記号，グラフ等を用いて表現し，思考する力が不足している。



### ◎改善の方向

①基礎的・基本的な知識や技能の定着度を高める一方で，数学を学ぶ意欲を向上させるために，数学を学習する楽しさや意義，数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・身近に見られる事象や体験した事柄を数学化する等，現実の生活を反映した問題を扱い，数学への興味・関心をもたせ，学習意欲を高めるよう指導する。
- ・公式や定理の導き方を教える等，数学的な見方や考え方のよさを認識させるように工夫する。

②数学を学ぶことの有用性に気付かせながら，様々な視点から問題を考察するための思考力を，生徒同士が互いに高め合えるよう指導を工夫する。

- ・「実生活において数学がどのように役立てられるのか。」という視点を重視し，数学を学ぶことの有用性を認識させ，様々な公式や定理がどのような場面で役立つのかに気付かせるよう指導を工夫する。
- ・グループ学習等を積極的に授業に取り入れる等，様々な視点から考え，思考することの楽しさを感じ，生徒達が思考力を高め合うことに繋がる工夫を行う。

③論理的に表現する力を育成するために，自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり議論したりする指導を工夫する。

- ・一般化を急がず，公式や定理を導く過程と問題解決や解答の過程とが一致するような具体例を扱い，公式や定理の導出過程を他の場面に応用できる指導を工夫する。
- ・学習した内容を生活と関連づけ，数学的に表現し，処理して得られた結果を現実の事象に照らして吟味させるような指導の工夫をする。

④数学の用語や記号を用いて書かれた文章等を理解・処理するために，グラフや図を活用し，具体化・視覚化することを通して思考が深められる示唆や支援を重視する。

- ・条件を具体数に置き換え問題を考察することの大切さを実感させ，図をかき状況を正確に判断し，その本質を捉える指導を工夫する。
- ・グラフを正確に読み取り，必要な情報を的確に判断し，活用する力を養う。
- ・ICTを積極的に活用し，状況を視覚的に捉えさせること等を通して，生徒自身が事象の変化に対応し，考察を深めていくことができるよう指導を工夫する。

## 英語

### ◎分析と課題 (◇…相当数の生徒ができています。◆…課題がある。)

◇聞く力を見る問題で、中学校までに習う基本的表現に関しては定着度合が高い。

◆まとまりのある英語を聞く中で、語法が多岐にわたる動詞が、どの用法で使用されているかを判断することなど、細部にわたり読み取る力について課題が見られる。

⇒課題1：まとまった量の英語を聞き取る際、使われている動詞の語法などを文脈に応じて理解し、内容を聞き取る力が不足している。

◆高校で学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

◆特に動詞に関する表現に関しては、多くの文法分野で活用する力が身に付いていない。

⇒課題2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法、とりわけ動詞に関する知識が正確に身に付いていない。

◇日本語との語順の違いに注意して英語表現できる能力についてはある程度身に付いている。

◆日本語の感覚が当てはまらない英語特有の表現に関する理解が不足している。

⇒課題3：日本語とは異なる英語特有の表現に関する理解の定着が十分でない。

◇英語で示された資料などから、必要な情報を探し出す力はある程度認められる。

◆未知の単語について、その意味を推測することなどをせず、早々に読むことをあきらめる傾向が見受けられる。

⇒課題4：英語の長文を読む活動に対する慣れが不足している。また、読解に必要な語彙が不足している。

### ◎改善の方向

①聞き取る力の土台となる基礎的な文法・語法の定着を図り、音読指導を多く取り入れる。その上で英語を聞く機会を多く設け、音声への慣れを促す。

- ・英語を聞く機会を多く設ける。
- ・多様な音読指導を通して、英語のリズムなどに慣れさせ、英語を聞くことを苦にしない態度を育てる必要がある。
- ・聞く目的を持たせた上でリスニング活動を実施することが重要である。そのためには、授業における教師のスマールトークなどの活用が望まれる。

②文法・語法を言語活動と効果的に関連づけて指導することが重要である。知識を定着させ、活用できるまでに高める指導が求められる。

- ・教師が既習の文法・語法を用いたスマールトーク等を行うことにより、生徒に活用場面を意識させる。
- ・授業において生徒が既習の文法・語法を用いたコミュニケーションをする場面を設定する。
- ・生徒の言語活動に対して、教師からの明示的なアドバイスを欠かすことなく与え続け、どのように英語を運用すべきかを、文法・語法の活用を通して体得させる。

③話すこと・書くことを中心とした言語活動を充実させ、生徒の表現活動を多く取り入れることが望まれる。

- ・既習の言語事項を様々な活動で生徒に活用させる場面を多く持つ。
- ・生徒が話したこと・書いたことに関して、その都度教師が適切なアドバイスを与えるなど、よりよい表現モデルを提示することが大切である。
- ・教師の説明が大半を占める授業ではなく、説明した事柄を生徒が実践する場を確保する。
- ・生徒が興味関心を示し、表現したくなるような題材を選ぶことも重要である。

④自ら進んで英文を読もうとする態度の育成が急務であり、そのためには言語に関する基礎基本事項を定着させることが必要である。

- ・英語という言語に関する関心を持たせる。その上で生徒の興味を引く題材を活用して、生徒自らが進んで読もうとする場面作りを工夫する。
- ・読む活動をする前に、背景知識を与える、使用語彙を定着させるなどの活動を行い、前向きに取り組む下地を作る。
- ・読解の手助けとなるような発問を工夫して、生徒が読み続ける姿勢を支援する。
- ・パラグラフリーディングやスキミング等の読解の手法を示すことで、目的を持って長文を読む態度を育成する。

### 3 1学年学習意識調査の結果と分析

※過去7年間の推移

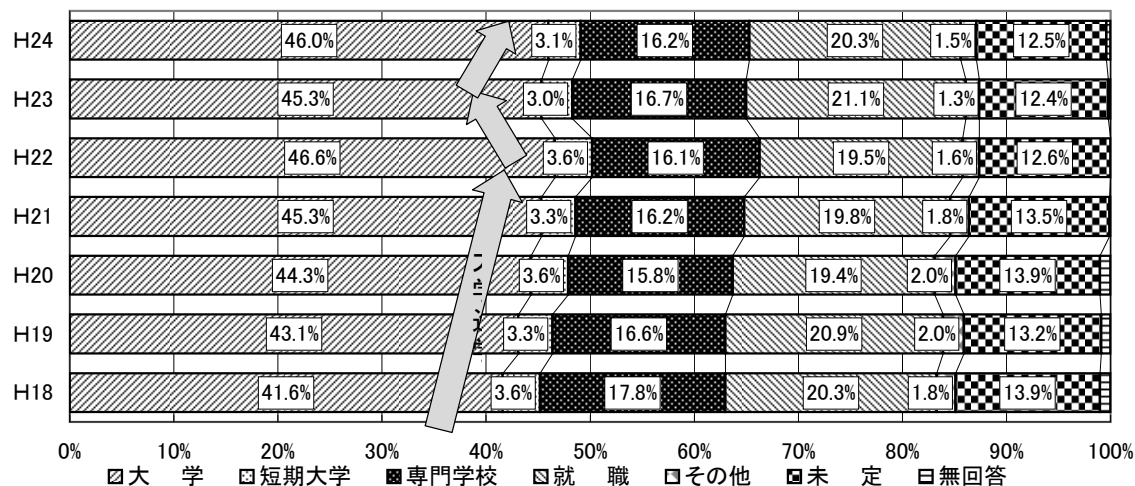
#### (1)「現在最も強く希望している進路は」

「大学進学希望者」が再び増加、「就職希望者」が減少

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
<b>H24</b>	<b>46.0%</b>	<b>3.1%</b>	<b>16.2%</b>	<b>20.3%</b>	<b>1.5%</b>	<b>12.5%</b>
H23	45.3%	3.0%	16.7%	21.1%	1.3%	12.4%
H22	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%

<分析> 前年度より、「大学進学希望者」は0.8ポイント増加。「就職希望者」は0.8ポイント減少

図2 進路希望別の割合の推移



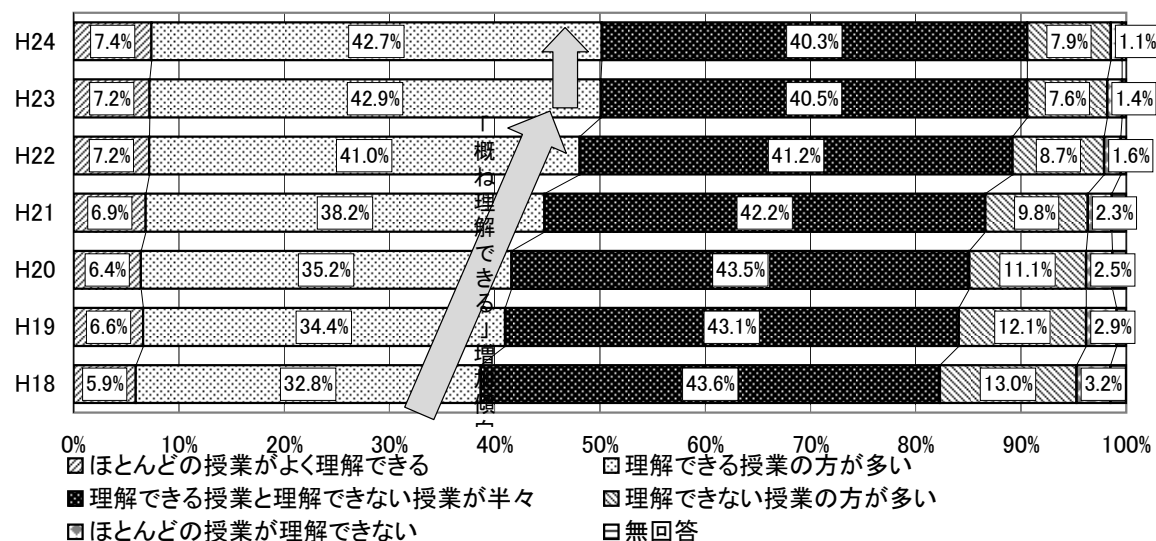
#### (2)「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が横ばい

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
<b>H24</b>	<b>7.4%</b>	<b>42.7%</b>	<b>40.3%</b>	<b>7.9%</b>	<b>1.1%</b>
H23	7.2%	42.9%	40.5%	7.6%	1.4%
H22	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が50.1%と、昨年と同じで50%を超えた。

図3 授業理解度の割合の推移



### (3)「受けたい授業はどんな授業か」

「興味関心もてる授業」「分かる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心もてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H24	35.3%	7.6%	38.0%	13.9%	4.9%
H23	37.0%	6.7%	38.0%	13.2%	4.9%
H22	37.3%	7.5%	37.3%	13.2%	4.4%
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%

＜分析＞受けたい授業の1位は「興味関心もてる授業」であり、次に「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」が続く。「発展的な内容まで教えてくれる授業」は、前年度より増加した。

### (4)「平日の学習時間」

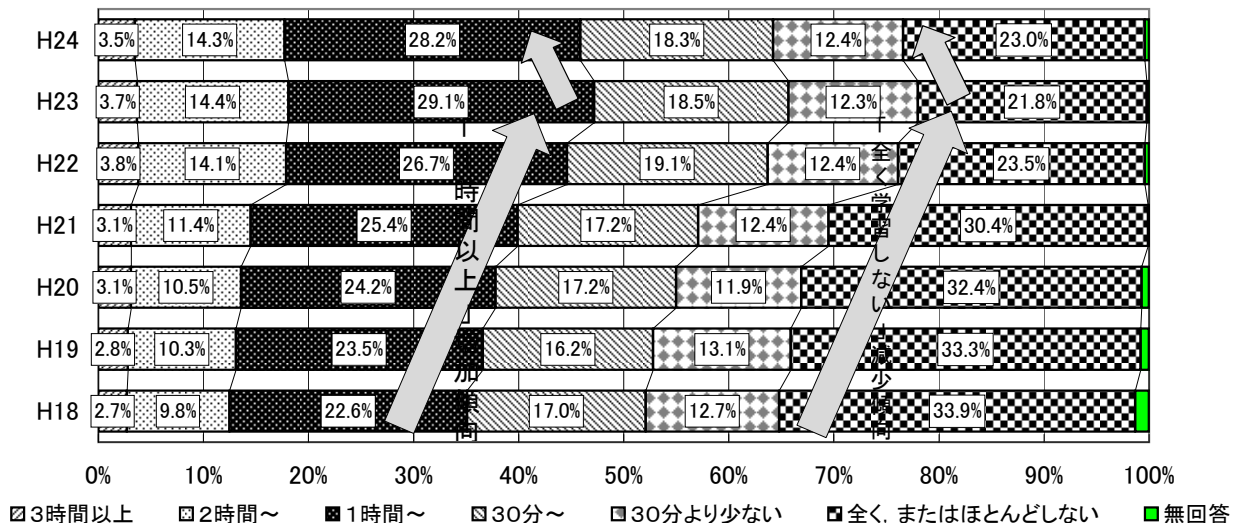
学習時間の増加傾向が減少に転じ、「全く学習しない」は減少傾向から増加に転じた

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H24	0.2%	0.5%	2.7%	14.3%	28.2%	18.3%	12.4%	23.0%
H23	0.1%	0.5%	3.1%	14.4%	29.1%	18.5%	12.3%	21.8%
H22	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%

＜分析＞平日の学習時間は前年度よりも「1時間以上」が1.3ポイント減少、「全く、またはほとんどしない」は1.2ポイントの前年度より増加した。

図4 家庭学習時間の割合の推移



(5)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒は増加傾向から減少に転じた

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校があ る時や家庭教 師がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
<b>H24</b>	<b>18.6%</b>	<b>5.0%</b>	<b>8.3%</b>	<b>11.7%</b>	<b>8.0%</b>	<b>26.8%</b>	<b>1.7%</b>	<b>12.5%</b>	<b>6.5%</b>	<b>0.6%</b>
H23	20.8%	5.0%	9.5%	11.7%	8.3%	24.4%	1.1%	11.7%	6.5%	0.7%
H22	20.5%	5.7%	8.4%	11.7%	7.9%	22.9%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%

<分析>前年度より「ほぼ毎日」学習しているは2.2ポイント減少。「ほとんどしない」は変化なし

(6)「学校での宿題・課題、小テストの割合」

<学校からの宿題・課題の割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんど出 ていない
<b>H24</b>	<b>21.9%</b>	<b>40.4%</b>	<b>31.3%</b>	<b>6.1%</b>
H23	22.9%	40.5%	30.4%	5.8%
H22	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

<分析>前年度より宿題・課題が「ほとんど毎日」割合が1.0ポイント減少。小テストを「ほとんど毎日」実施は2.7ポイント増加

小テストの「ほとんど毎日」実施が再び増加

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回 ぐらい	ほとんどない
<b>H24</b>	<b>12.8%</b>	<b>36.1%</b>	<b>34.3%</b>	<b>16.3%</b>
H23	10.1%	36.4%	35.3%	18.0%
H22	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

※H20に新設した質問

(7)「家庭学習をする上で悩んでいること」

「集中できない」が増加、「方法が分からない」は減少傾向が継続

	方法が分 からない	集中でき ない	計画が長 続きし ない	部活動 との両 立	成績が 伸び ない	その他	特になし
<b>H24</b>	<b>13.6%</b>	<b>28.3%</b>	<b>15.9%</b>	<b>20.5%</b>	<b>5.8%</b>	<b>2.3%</b>	<b>13.3%</b>
H23	14.0%	26.6%	15.2%	21.4%	6.4%	2.8%	13.4%
H22	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%

<分析>学習上の悩みは「集中できない」が最も多く、前年度より「部活動との両立」が0.9ポイント減少

(8)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「ゲーム・インターネット」が増加

	家庭学習	テレビや ビデオ	ゲームや インターネット	電話や メール	読書	自分の 趣味	家族 との 対話	手伝い	その他
<b>H24</b>	<b>9.8%</b>	<b>18.0%</b>	<b>18.6%</b>	<b>17.3%</b>	<b>3.9%</b>	<b>15.0%</b>	<b>4.6%</b>	<b>1.3%</b>	<b>11.0%</b>
H23	10.8%	19.6%	15.8%	17.8%	3.6%	14.9%	5.1%	1.4%	10.8%
H22	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%

\*「ゲームやインターネット」の項目は、H22までは「ゲームやパソコン」、H18までは「ゲーム」のみでの調査結果である。

<分析>「家庭学習」は前年度より1.0ポイント減少。「ゲームやインターネット」が昨年度より2.8ポイント増加し、「家族との対話」は0.5ポイント減少

(9)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は減少傾向

	必ずとる	たいていとる	とらないこと が多い	全くとらない
<b>H24</b>	<b>77.0%</b>	<b>13.6%</b>	<b>5.5%</b>	<b>3.6%</b>
H23	77.3%	13.8%	5.1%	3.6%
H22	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析>朝食を「必ずとる」または「たいていとる」生徒は、前年度より0.5ポイント減少

## 4 2学年学習意識調査の結果と分析

※1年次との比較, 過去5年間の推移

### (1)「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化、「大学進学希望者」は前年並み

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
<b>H24(2年)</b>	<b>48.8%</b>	<b>2.9%</b>	<b>15.9%</b>	<b>24.1%</b>	<b>1.6%</b>	<b>6.5%</b>
H23(1年次)	45.3%	3.0%	16.7%	21.1%	1.3%	12.4%
H23(2年)	48.8%	3.2%	15.6%	24.3%	1.5%	6.5%
H22(2年)	50.3%	2.8%	15.8%	23.1%	1.4%	6.2%
H21(2年)	48.2%	3.2%	15.7%	24.1%	1.4%	7.2%
H20(2年)	47.9%	3.0%	14.9%	24.3%	1.5%	6.7%

<分析> 1年次より未定者が半減。「大学進学希望者」及び「就職希望者」が、前年度から、ほぼ横ばい

図5 進路希望別の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)

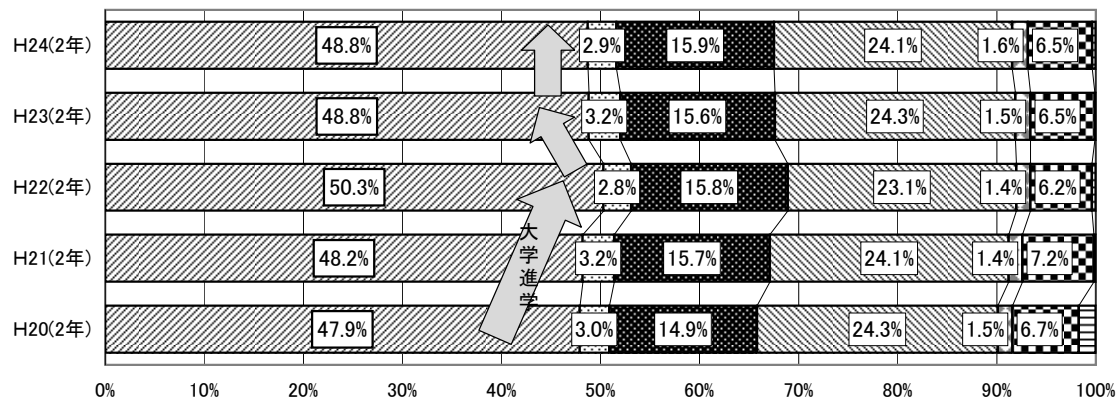
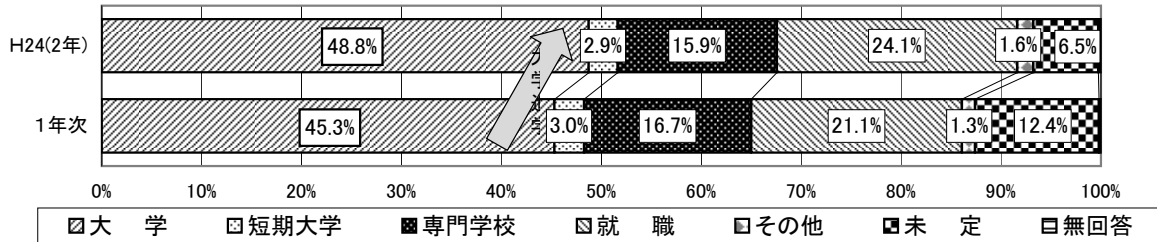
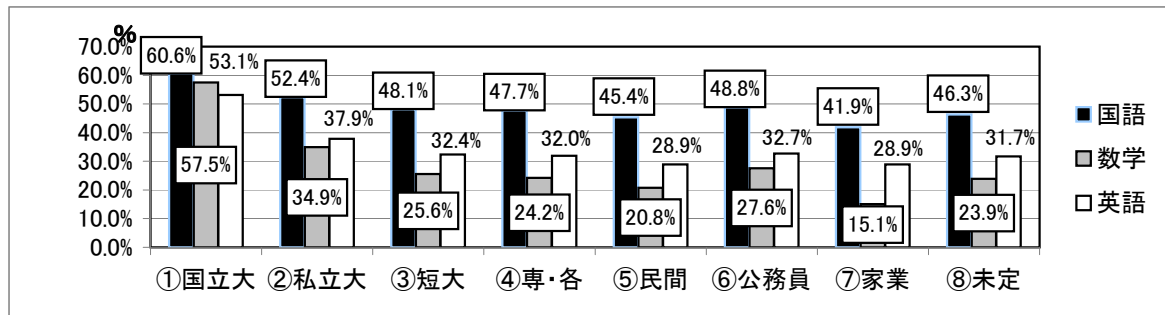


図6 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(共通問題)



### (2)「授業がどのくらい理解できるか」

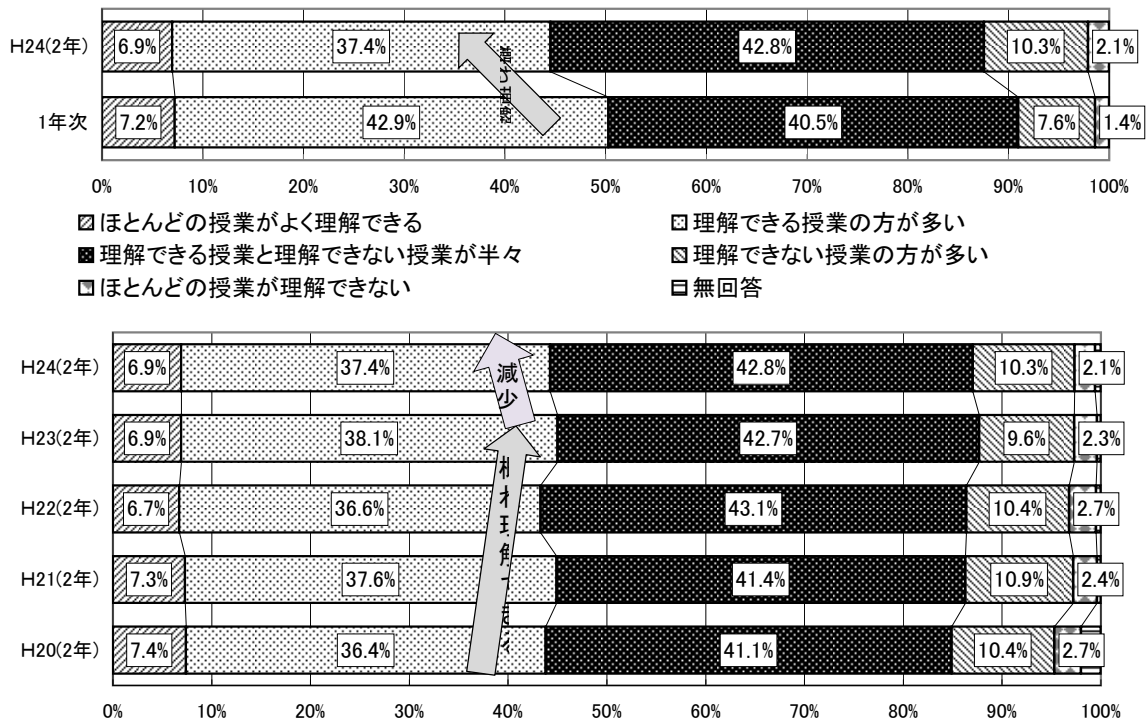
「授業が理解できる」が1年次よりも減少

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
<b>H24(2年)</b>	<b>6.9%</b>	<b>37.4%</b>	<b>42.8%</b>	<b>10.3%</b>	<b>2.1%</b>
H23(1年次)	7.2%	42.9%	40.5%	7.6%	1.4%
H23(2年)	6.9%	38.1%	42.7%	9.6%	2.3%
H22(2年)	6.7%	36.6%	43.1%	10.4%	2.7%
H21(2年)	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%
H20(2年)	7.4%	36.4%	41.1%	10.4%	2.7%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が1年次より5.8ポイント減少。前年度より0.7ポイント減少し44.3%であった。



図7 授業理解度の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)



(3)「平日の学習時間」

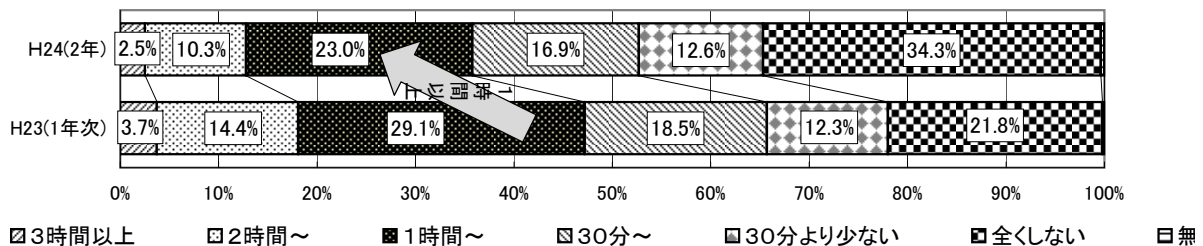
2～3時間集中した学習が効果的

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
<b>H24(2年)</b>	<b>0.3%</b>	<b>0.4%</b>	<b>1.8%</b>	<b>10.3%</b>	<b>23.0%</b>	<b>16.9%</b>	<b>12.6%</b>	<b>34.3%</b>
H23(1年次)	0.1%	0.5%	3.1%	14.4%	29.1%	18.5%	12.3%	21.8%
H23(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	11.2%	22.8%	16.3%	13.1%	33.2%
H22(2年)	0.3%	0.3%	2.0%	10.4%	23.3%	16.7%	12.3%	34.4%
H21(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%
H20(2年)	0.4%	0.4%	2.3%	10.3%	21.5%	14.3%	12.3%	37.8%

<分析> 「全く、またはほとんどしない」は1年次より12.5ポイント増加, 前年度2年生よりは1.1ポイント増加。「2時間以上」は1.6ポイント減少

図8 家庭学習時間の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)



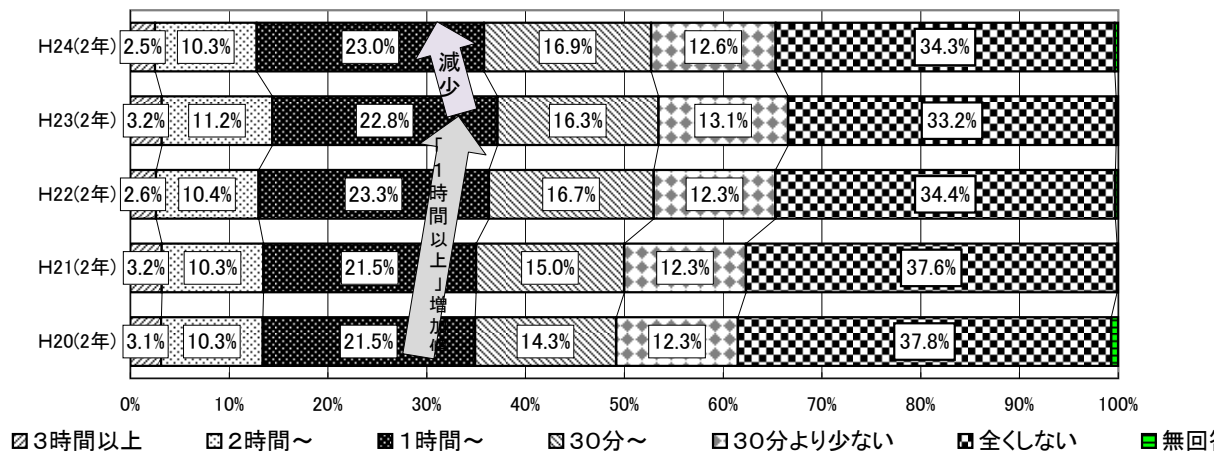
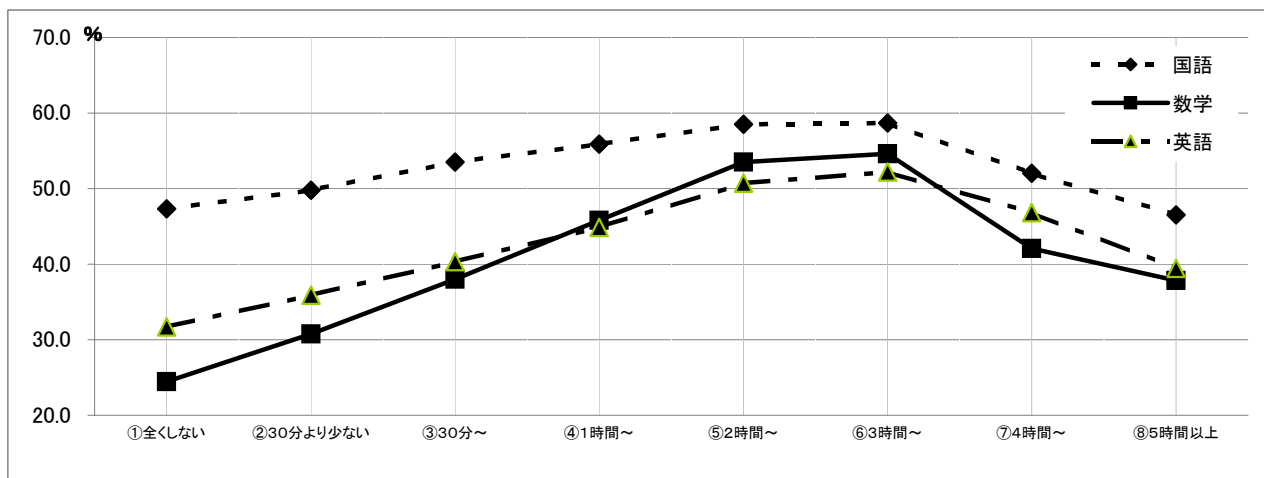


図9 家庭学習時間と共通問題の正答率との関係



(4)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が1年次と比べ減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校がある 時や家庭教師 がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
H24(2年)	15.2%	3.8%	5.7%	17.6%	6.4%	26.1%	1.5%	11.8%	10.4%	0.8%
H23(1年次)	20.8%	5.0%	9.5%	11.7%	8.3%	24.4%	1.1%	11.7%	6.5%	0.7%
H23(2年)	17.3%	4.4%	6.5%	18.3%	6.1%	23.2%	1.2%	11.0%	10.8%	1.0%
H22(2年)	15.4%	4.7%	6.6%	18.4%	5.7%	23.5%	1.3%	12.0%	11.1%	1.1%
H21(2年)	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%
H20(2年)	15.2%	4.5%	5.4%	19.9%	4.3%	23.9%	1.6%	11.4%	11.8%	1.2%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているのは1年次より5.6ポイント減少、前年度2年生より2.1ポイント減少

(5)「学校での宿題・課題、小テストの割合」

宿題・課題、小テストが基礎・基本の定着に効果大

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんど出 ていない
H24(2年)	15.8%	35.0%	38.2%	10.7%
H23(1年次)	22.9%	40.5%	30.4%	5.8%
H23(2年)	18.6%	32.9%	35.3%	12.9%
H22(2年)	16.1%	33.1%	37.9%	12.6%
H21(2年)	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%
H20(2年)	11.1%	28.8%	40.1%	19.3%
H19(2年)	13.4%	29.1%	36.9%	19.5%

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回 ぐらい	ほとんどない
H24(2年)	10.6%	36.4%	29.6%	23.1%
H23(1年次)	10.1%	36.4%	35.3%	18.0%
H23(2年)	14.1%	37.7%	29.6%	18.4%
H22(2年)	12.1%	36.6%	30.6%	20.2%
H21(2年)	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20(2年)	9.4%	35.2%	28.1%	26.6%

※H20に新設した質問

<分析> 「ほとんど毎日」または「週に2~3回」宿題・課題が出されるのは、1年次より12.6ポイント減少

「ほとんど毎日」または「週に2~3回」小テストがあるのは、1年次より0.5ポイント増加

図10 宿題・課題の割合と共通問題の正答率との関係

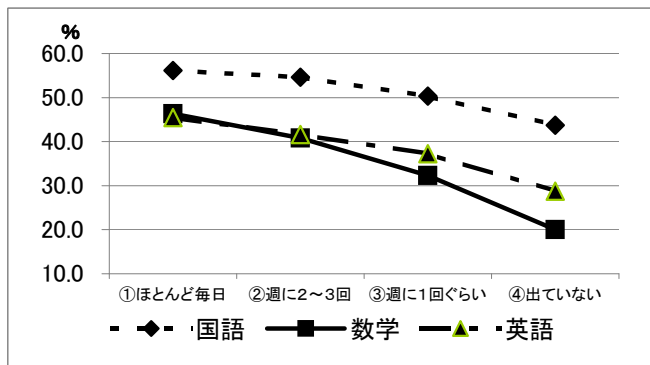
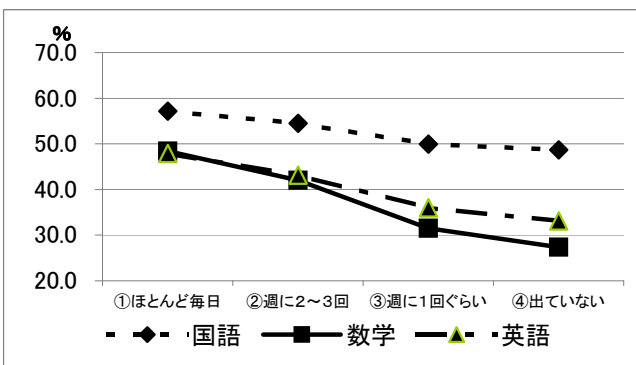


図11 小テストの割合と共通問題の正答率との関係



(6)「家庭学習をする上で悩んでいること」

1年次に比べ「集中できない」が増加、「部活動との両立」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H24(2年)	13.3%	29.7%	15.9%	16.0%	6.2%	3.0%	15.7%
H23(1年次)	14.0%	26.6%	15.2%	21.4%	6.4%	2.8%	13.4%
H23(2年)	13.4%	28.5%	14.7%	16.4%	7.3%	3.8%	15.8%
H22(2年)	14.6%	29.7%	15.1%	15.6%	6.4%	3.5%	14.8%
H21(2年)	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%
H20(2年)	12.7%	28.6%	15.5%	16.1%	6.3%	4.5%	15.5%

<分析> 1年次より「集中できない」が3.1ポイント増加。「部活動との両立」は5.4ポイント減少

(7)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「ゲームやインターネット」は前年度2年生より大幅増加

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやインターネット	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H24(2年)	7.0%	20.2%	22.7%	14.9%	3.5%	14.9%	4.4%	1.3%	10.7%
H23(1年次)	10.8%	19.6%	15.8%	17.8%	3.6%	14.9%	5.1%	1.4%	10.8%
H23(2年)	8.4%	21.8%	18.1%	15.9%	3.9%	15.0%	4.1%	1.2%	11.3%
H22(2年)	6.6%	23.2%	14.4%	17.8%	3.1%	17.2%	4.3%	1.3%	11.6%
H21(2年)	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%
H20(2年)	5.7%	25.3%	12.2%	18.1%	3.8%	16.7%	3.7%	1.3%	12.1%

\*「ゲームやインターネット」の項目は、H22までは「ゲームやパソコン」での調査結果である。

<分析> 「家庭学習」は前年度2年生より1.4ポイント減少。「ゲームやインターネット」は前年度2年生より4.6ポイント、1年次より6.9ポイント増加

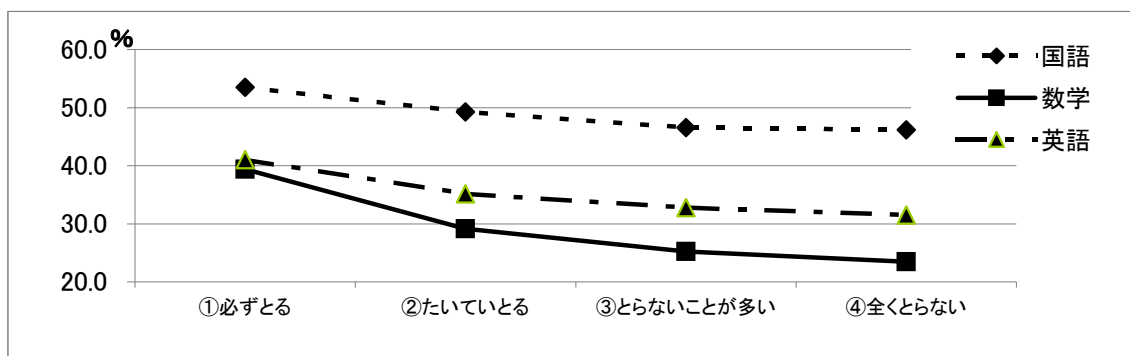
(8)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒はすべての教科において高い正答率

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H24(2年)	73.7%	14.2%	6.5%	5.3%
H23(1年次)	77.3%	13.8%	5.1%	3.6%
H23(2年)	74.1%	14.8%	6.1%	4.8%
H22(2年)	74.3%	14.4%	5.5%	5.4%
H21(2年)	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%
H20(2年)	71.9%	14.3%	6.8%	6.1%

<分析> 朝食を「必ずとる」または「たいていとる」は前年度2年生及び1年次より減少

図12 朝食習慣と共通問題の正答率



## 5 生活・「志教育」に関する意識調査の結果【平成24年度・新規】

「当てはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合が高い順に記載

### 生活全般

概ね8割の生徒が充実感を感じ、安定しているが、  
2割の生徒が不安定な状況にあり早急な対応が必要

	1年生	2年生
☆ 毎日同じくらいの時刻に起きている	94.7%	94.4%
☆ 友達と、良く話しをする	93.2%	92.8%
☆ 食欲がある	92.4%	91.5%
☆ 楽しく過ごすことが多い	86.4%	83.0%
☆ 体調は良い	82.1%	80.7%
☆ 人が困っている時は、進んで助ける	82.0%	79.6%
☆ 熟睡できている	78.1%	77.5%
☆ 毎日同じくらいの時刻に寝ている	75.6%	75.2%
☆ 学校生活に充実感を感じている	78.1%	70.7%
☆ 趣味の時間を確保している	71.7%	73.1%
☆ のんびりと過ごす時間がある	70.8%	73.2%
☆ 新聞やテレビのニュース等に関心がある	58.3%	59.7%
★ つまらなく過ごすことが多い	21.1%	26.8%
★ 心配なことがあり、学校生活に集中できない	21.4%	24.7%
★ 感情の起伏を抑えられないことが多い	20.7%	23.6%

### 勉強について 部活について

勉強に集中できるは5割、部活に集中できるは8割  
勉強に集中できる生徒を増やすことが課題

	1年生	2年生
・ 勉強と部活の両立を目指している	78.5%	69.5%
・ 部活動に集中できている	78.5%	69.1%
・ 集中して勉強できる	51.5%	46.5%
・ 勉強できることがうれしい	38.3%	34.6%

### 「志教育」関係 の達成度 (自己理解)

「かかわる」は9割、「もとめる」と「はたす」は8割達成  
挑戦意欲、情報発信、ボランティアに課題

	1年生	2年生
・ 自分の長所を伸ばそうとしている	94.7%	94.7%
・ 自分の個性や適性が分かっている	70.4%	67.2%
(かかわる)		
・ 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている	94.6%	93.9%
・ 相手の個性や考えを受け入れるようにしている	93.2%	91.7%
・ 時と場に応じた言葉づかいをしている	91.8%	90.0%
・ 仲間と力を合わせて活動しようとしている	90.3%	87.9%
・ 自分の考えを相手に的確に伝えている	67.0%	64.0%
(もとめる)		
・ 人の役に立つ人間になりたい	91.2%	87.2%
・ 夢中になれることがある	87.9%	84.6%
・ 一度はじめたことは最後までやり遂げる	82.7%	80.6%
・ 難しいことでも挑戦することが多い	59.4%	56.4%
(はたす)		
・ 校則や公共のルール・マナーを守っている	92.5%	89.8%
・ 自分の役割に責任を持って行動している	87.1%	85.9%
・ 働くことの意義を理解している	80.3%	78.5%
・ クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる	79.3%	74.6%
・ ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している	16.9%	22.7%

## Q26以降の質問毎集計 学年比較

Q26～Q30

起床時刻がほぼ安定している生徒は95%と多い。

就寝時刻が安定、熟睡できている、体調が良い、の3項目に概ね当てはまると答えた生徒はそれぞれ約75%。

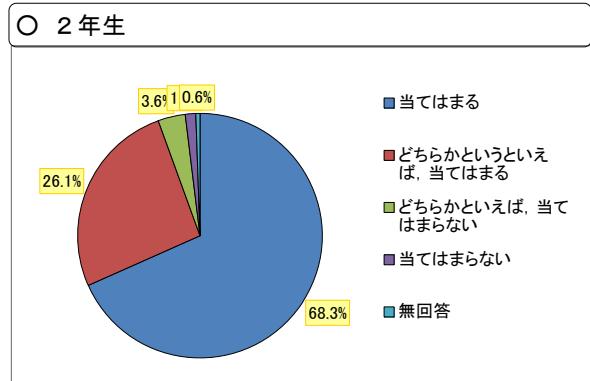
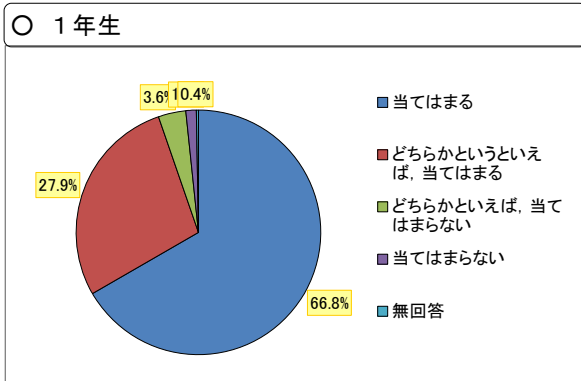
逆に、就寝時刻が不規則、熟睡できない、体調が良くないという生徒はそれぞれ約25%。

生活リズムの維持や体調管理に問題を抱える生徒が約25%おり心配される。

食欲があるは9割を越え、健康そのもの。

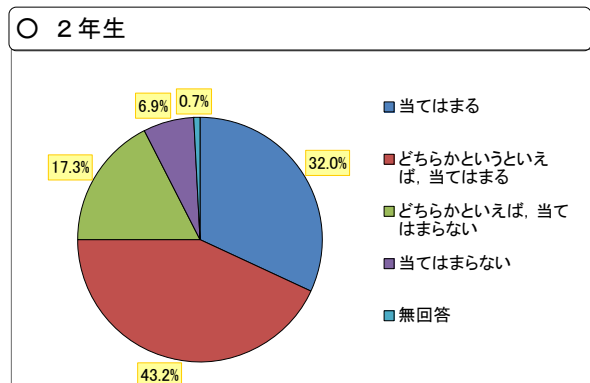
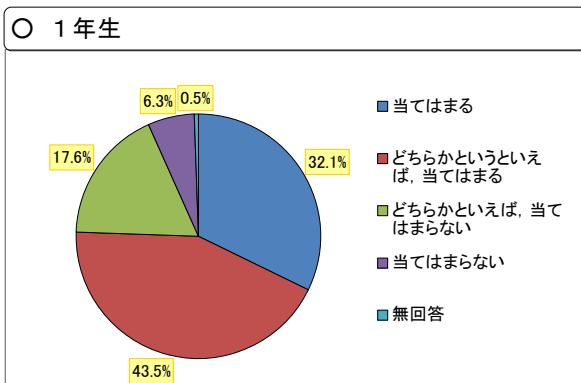
### 【生活習慣について】

#### ●Q26 毎日同じくらいの時刻に起きている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	66.8%	27.9%	3.6%	1.4%	0.4%	100.0%
2年生	68.3%	26.1%	3.6%	1.4%	0.6%	100.0%

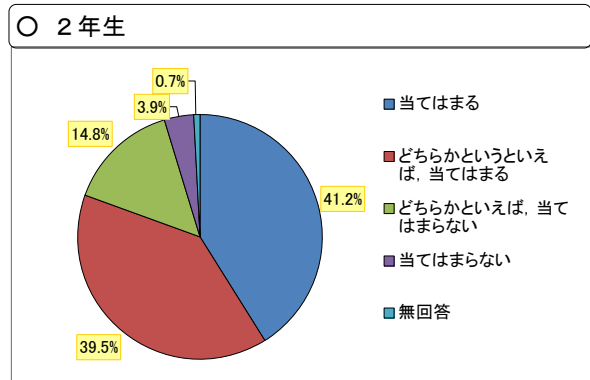
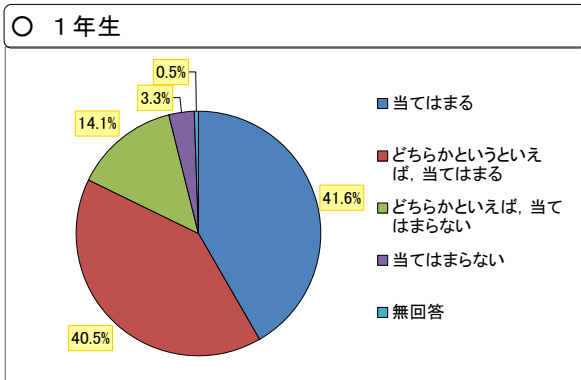
#### ●Q27 毎日同じくらいの時刻に寝ている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	32.1%	43.5%	17.6%	6.3%	0.5%	100.0%
2年生	32.0%	43.2%	17.3%	6.9%	0.7%	100.0%

### 【身体や心のようすについて】

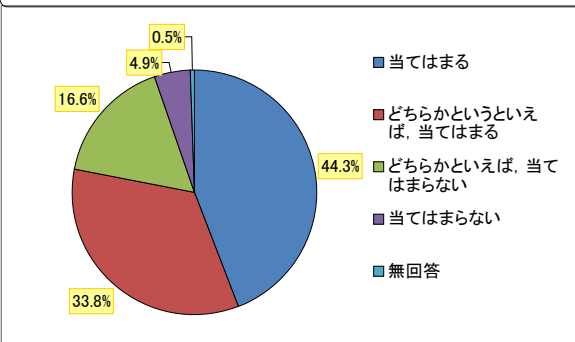
#### ●Q28 体調はよい



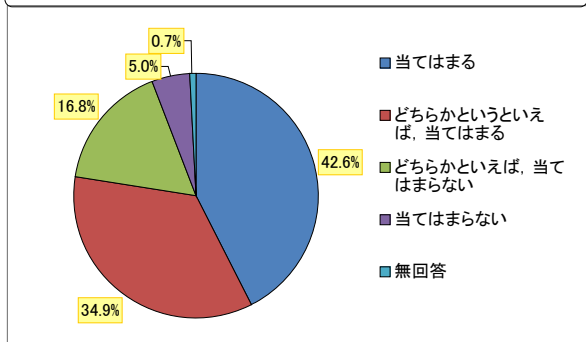
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	41.6%	40.5%	14.1%	3.3%	0.5%	100.0%
2年生	41.2%	39.5%	14.8%	3.9%	0.7%	100.0%

## ●Q29 熟睡ができています

○ 1年生



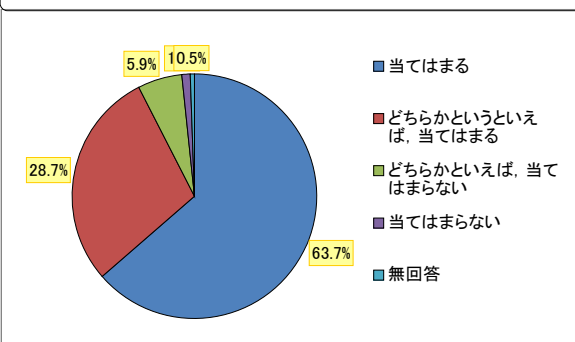
○ 2年生



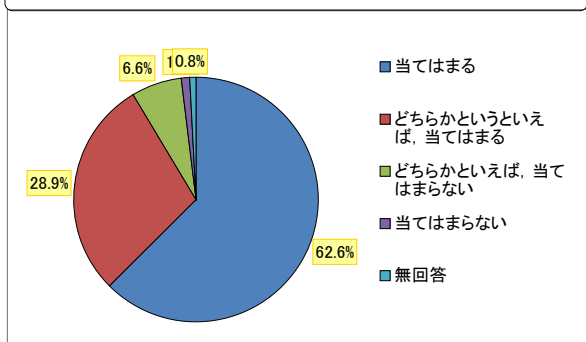
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	44.3%	33.8%	16.6%	4.9%	0.5%	100.0%
2年生	42.6%	34.9%	16.8%	5.0%	0.7%	100.0%

## ●Q30 食欲はある

○ 1年生



○ 2年生



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	63.7%	28.7%	5.9%	1.2%	0.5%	100.0%
2年生	62.6%	28.9%	6.6%	1.1%	0.8%	100.0%

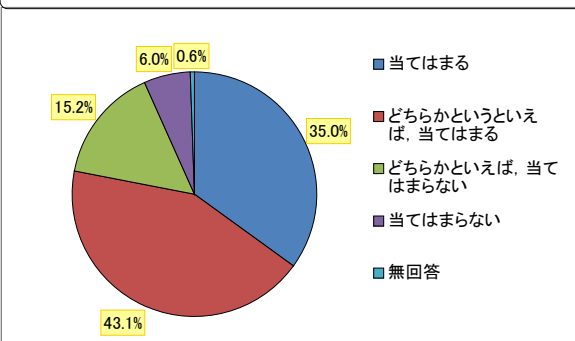
Q31~Q33

学校生活への充実感・満足を感じるが約75%。楽しく過ごす、友達と良く話をするが約9割おり、高校生生活を友人とともに楽しく過ごしている者が多い。

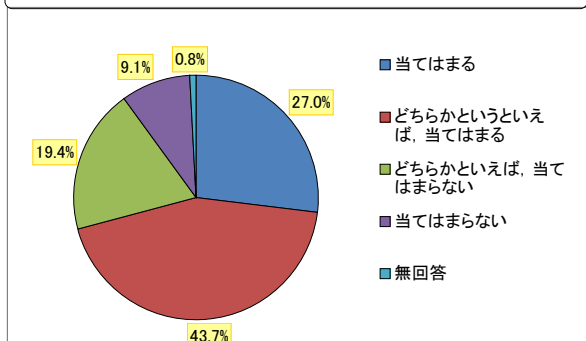
逆に、学校生活に満足感を感じられないが約3割、楽しく過ごせないが約1割、友達と良く話をするに当てはまらないが約5%程度おり、これらに当てはまる生徒のケアが必要と思われる。特に、2年生においては、学校生活の充実感・満足感の低下がみられることから、個人面談等の実施が望ましいと思われる。

## ●Q31 学校生活に充実感や満足感を感じている

○ 1年生



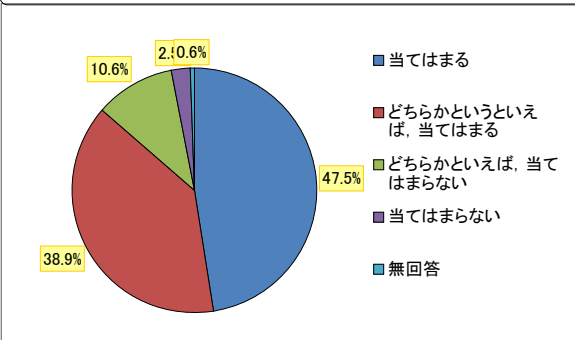
○ 2年生



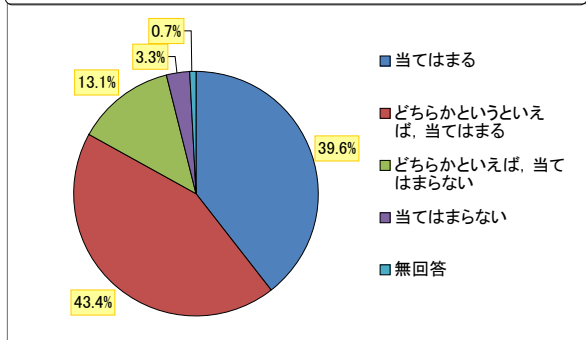
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	35.0%	43.1%	15.2%	6.0%	0.6%	100.0%
2年生	27.0%	43.7%	19.4%	9.1%	0.8%	100.0%

## ●Q32 楽しく過ごすことが多い

○ 1年生



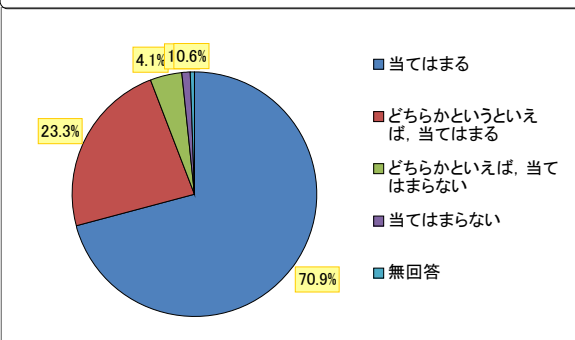
○ 2年生



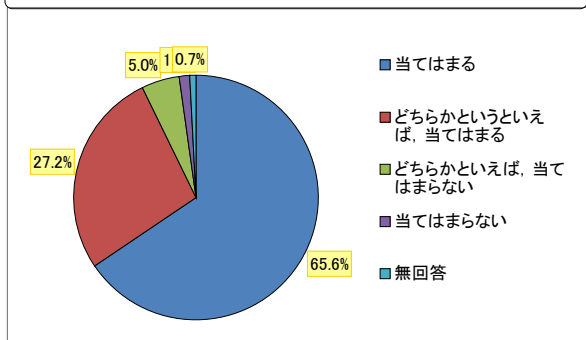
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.5%	38.9%	10.6%	2.5%	0.6%	100.0%
2年生	39.6%	43.4%	13.1%	3.3%	0.7%	100.0%

## ●Q33 友達と、よく話をする

○ 1年生



○ 2年生



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	70.9%	23.3%	4.1%	1.0%	0.6%	100.0%
2年生	65.6%	27.2%	5.0%	1.5%	0.7%	100.0%

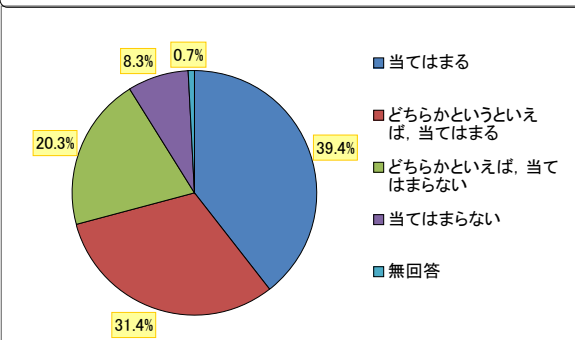
### Q34~Q37

人が困っている時は進んで助けるようにしているは約8割、のんびりと過ごす時間がある、趣味の時間を確保しているは約7割、ニュースに関心があるは約6割で、時間の確保、外界への関心は概ね好調。

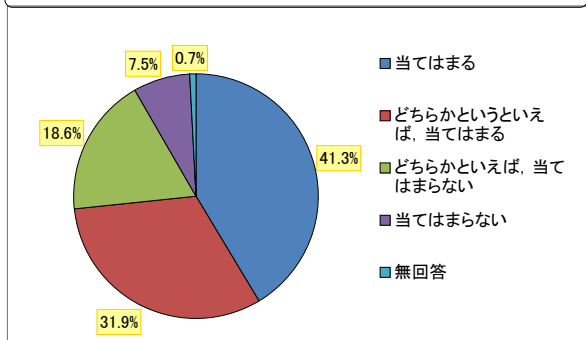
逆に、のんびり過ごす時間がない、趣味の時間が取れないが3割、困っている人を助けることができないが2割、ニュースに関心がない4割おり、忙しい等の理由から他人や外界に関心が持たなくなっている生徒も多く心配される。

## ●Q34 のんびり過ごす時間がある

○ 1年生

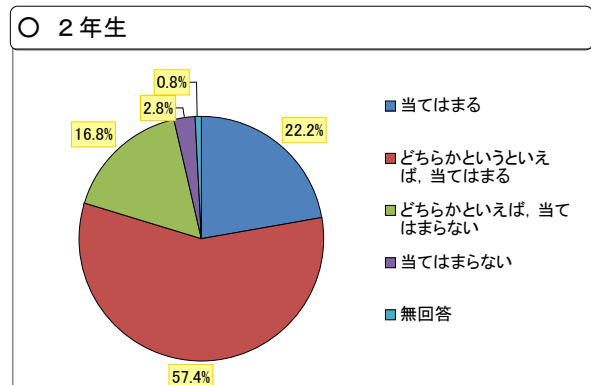
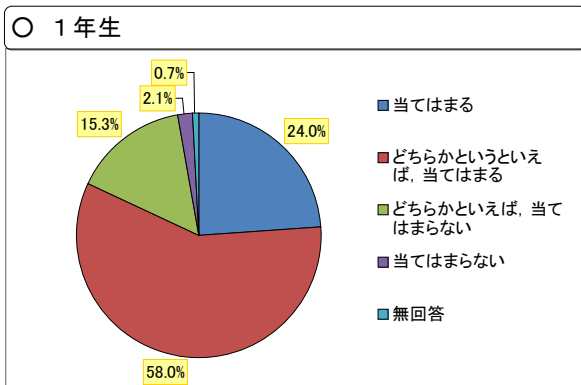


○ 2年生



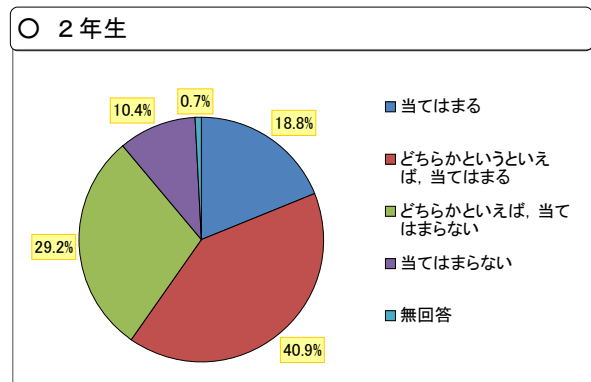
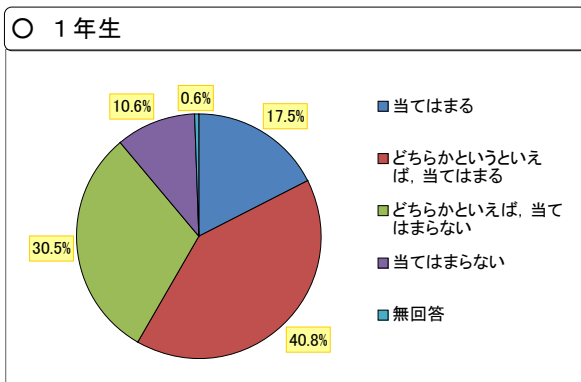
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	39.4%	31.4%	20.3%	8.3%	0.7%	100.0%
2年生	41.3%	31.9%	18.6%	7.5%	0.7%	100.0%

## ●Q35 人が困っている時は、進んで助けるようにしている



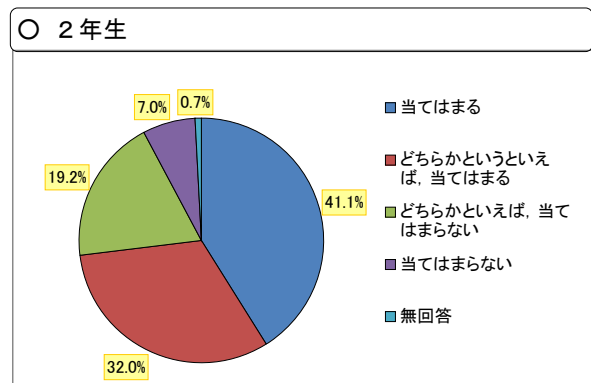
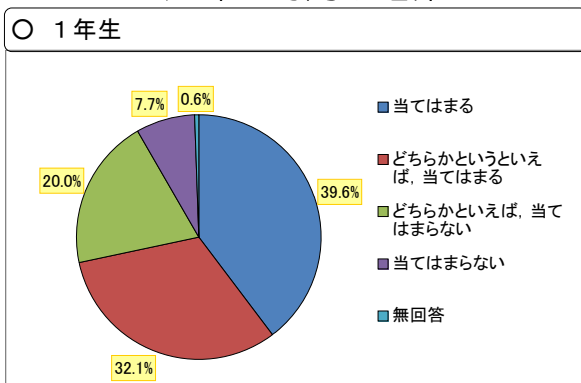
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	24.0%	58.0%	15.3%	2.1%	0.7%	100.0%
2年生	22.2%	57.4%	16.8%	2.8%	0.8%	100.0%

## ●Q36 新聞やテレビのニュースなどに関心がある



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	17.5%	40.8%	30.5%	10.6%	0.6%	100.0%
2年生	18.8%	40.9%	29.2%	10.4%	0.7%	100.0%

## ●Q37 趣味の時間を確保している



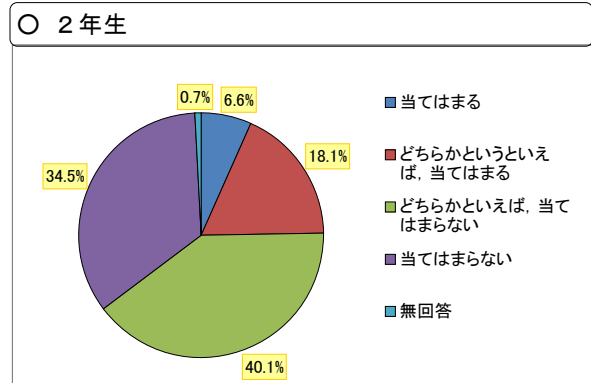
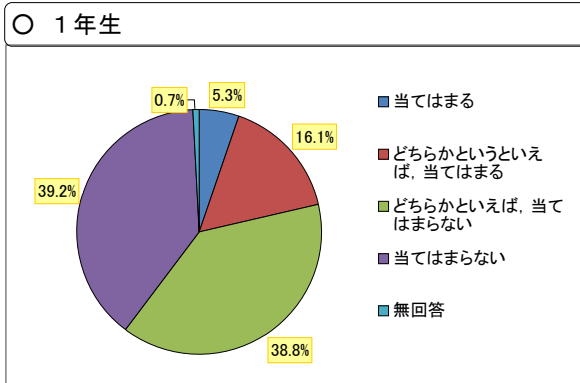
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	39.6%	32.1%	20.0%	7.7%	0.6%	100.0%
2年生	41.1%	32.0%	19.2%	7.0%	0.7%	100.0%



Q38～Q40

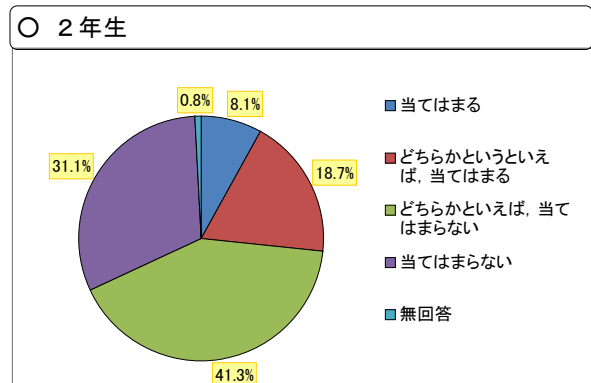
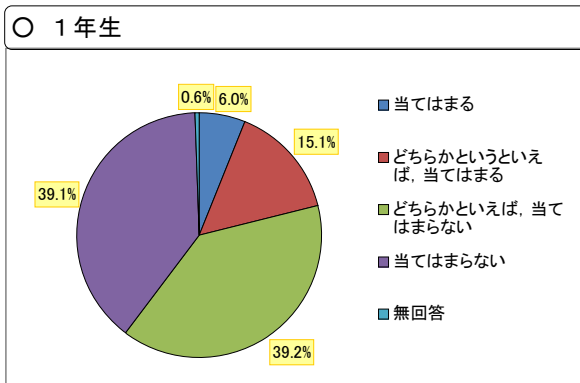
学校生活に集中できない、つまらなく過ごすことが多い、感情の起伏を抑えられないことが多いという生徒がそれぞれ約25%と一定数おり、心配される。いずれも、2年生の方が、若干多く、学校生活に充実感・満足感を得られないことに関係していることが、クロス集計から見られる

●Q38 心配なことがあり、学校生活に集中できない



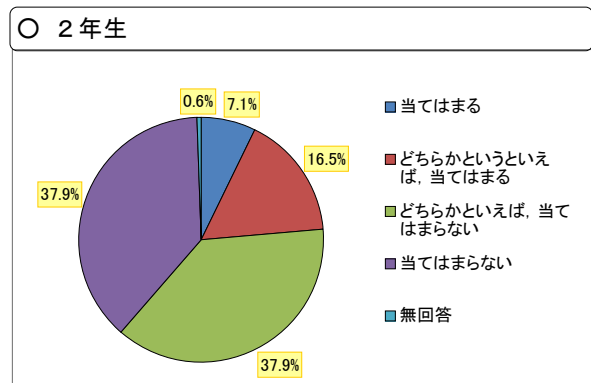
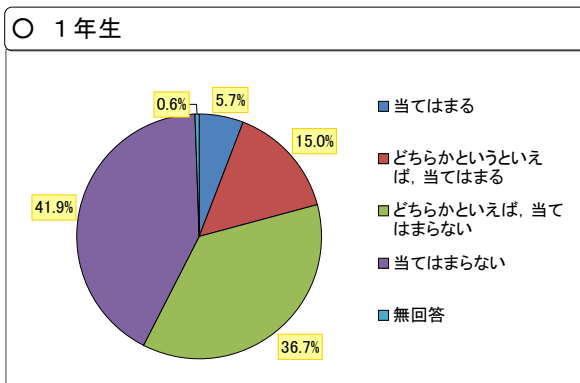
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	5.3%	16.1%	38.8%	39.2%	0.7%	100.0%
2年生	6.6%	18.1%	40.1%	34.5%	0.7%	100.0%

●Q39 つまらなく過ごすことが多い



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	6.0%	15.1%	39.2%	39.1%	0.6%	100.0%
2年生	8.1%	18.7%	41.3%	31.1%	0.8%	100.0%

●Q40 感情の起伏を抑えられないことが多い



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	5.7%	15.0%	36.7%	41.9%	0.6%	100.0%
2年生	7.1%	16.5%	37.9%	37.9%	0.6%	100.0%

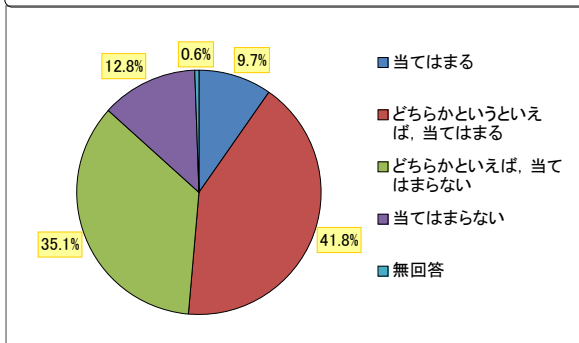
## 【勉強について】

Q4 1～Q4 2

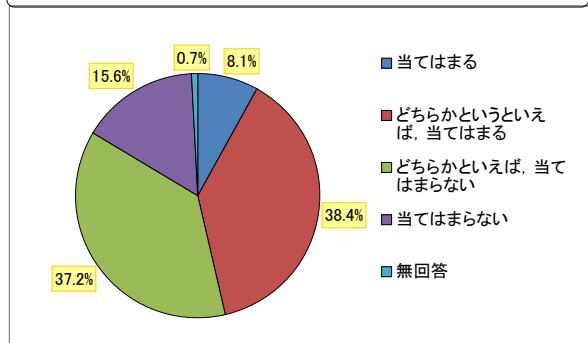
勉強に集中できるは5割，勉強できることがうれしいは4割で，勉強に向いている生徒は約半数。比較的，勉強に取り組もうとする意欲は見られる。

### ●Q41 集中して勉強できている

○ 1年生



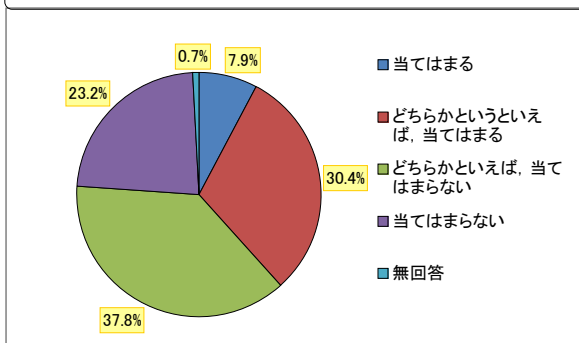
○ 2年生



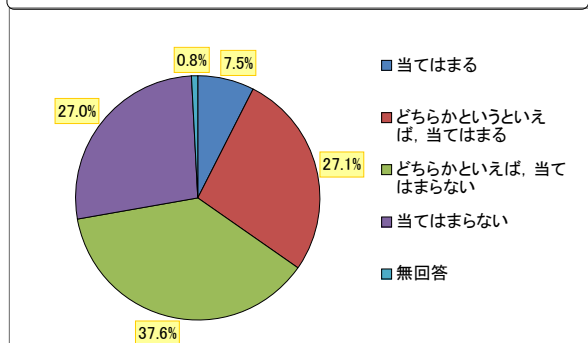
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	9.7%	41.8%	35.1%	12.8%	0.6%	100.0%
2年生	8.1%	38.4%	37.2%	15.6%	0.7%	100.0%

### ●Q42 勉強できることがうれしい

○ 1年生



○ 2年生



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	7.9%	30.4%	37.8%	23.2%	0.7%	100.0%
2年生	7.5%	27.1%	37.6%	27.0%	0.8%	100.0%

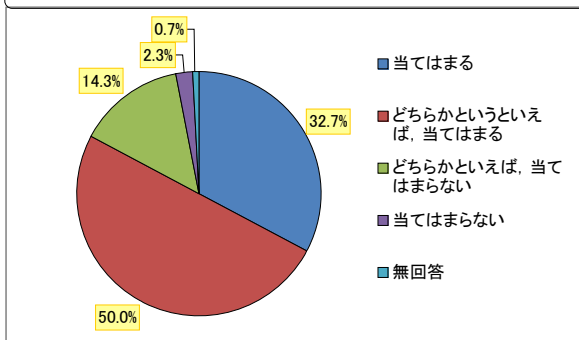
## 【意欲について】

Q4 3～Q4 6

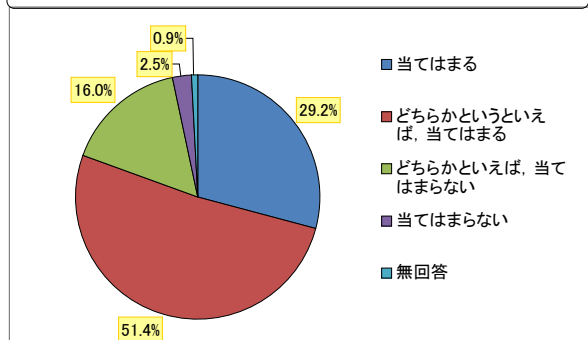
一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている，は8割，人の役に立つ人間になりたいと思っている，夢中になれることがある，は9割。

### ●Q43 一度始めたことは最後までやり遂げるようにしている

○ 1年生

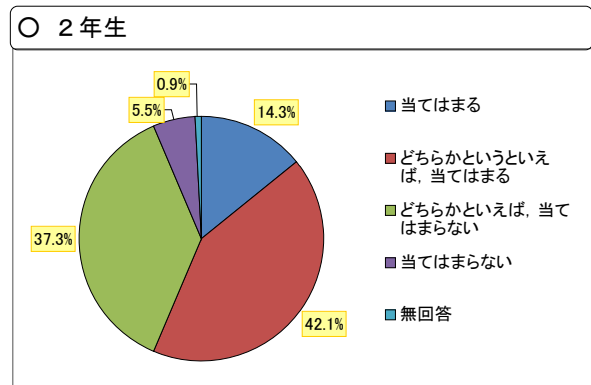
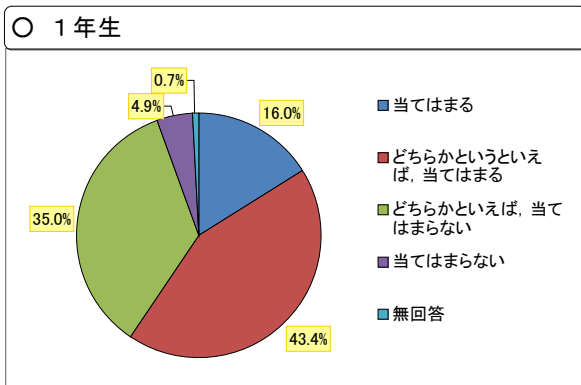


○ 2年生



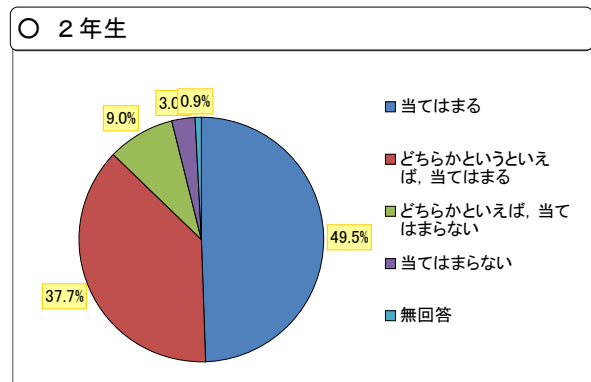
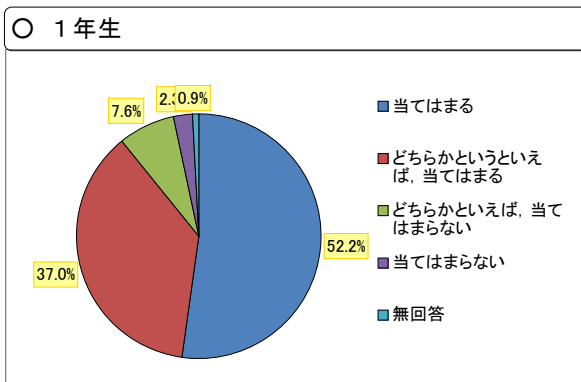
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	32.7%	50.0%	14.3%	2.3%	0.7%	100.0%
2年生	29.2%	51.4%	16.0%	2.5%	0.9%	100.0%

## ●Q44 難しいことでも挑戦することが多い



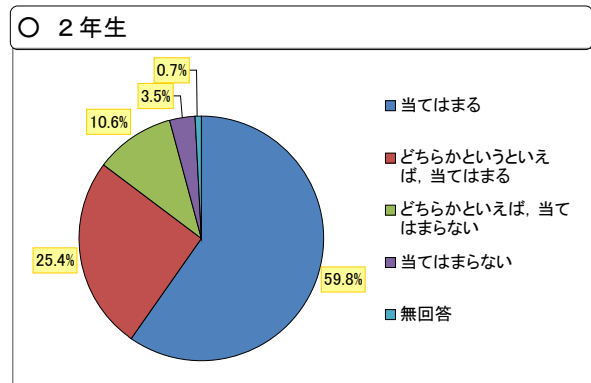
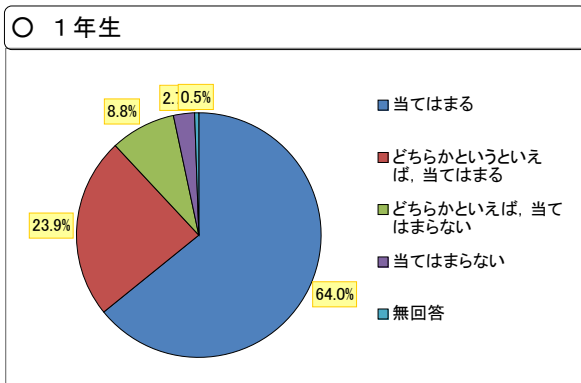
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	16.0%	43.4%	35.0%	4.9%	0.7%	100.0%
2年生	14.3%	42.1%	37.3%	5.5%	0.9%	100.0%

## ●Q45 人の役に立つ人間になりたいと思っている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	52.2%	37.0%	7.6%	2.3%	0.9%	100.0%
2年生	49.5%	37.7%	9.0%	3.0%	0.9%	100.0%

## ●Q46 夢中になれることがある



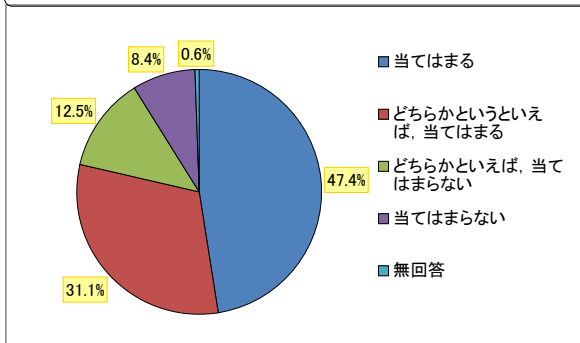
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	64.0%	23.9%	8.8%	2.7%	0.5%	100.0%
2年生	59.8%	25.4%	10.6%	3.5%	0.7%	100.0%

Q47～Q48

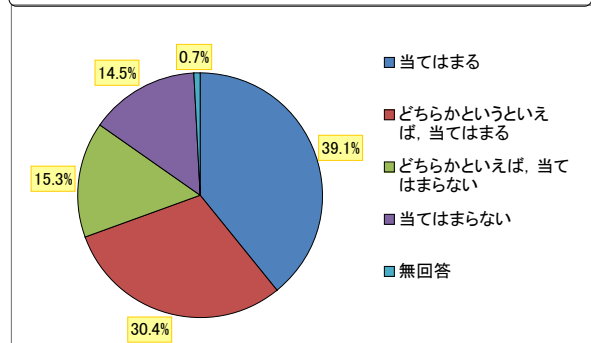
部活に集中できる、勉強と部活の両立を目指しているは1年生で8割、2年生で7割で、部活に気持ちが向いている生徒は勉強中心の生徒より多い。

### ●Q47 勉強と部活動の両立を目指している

○ 1年生



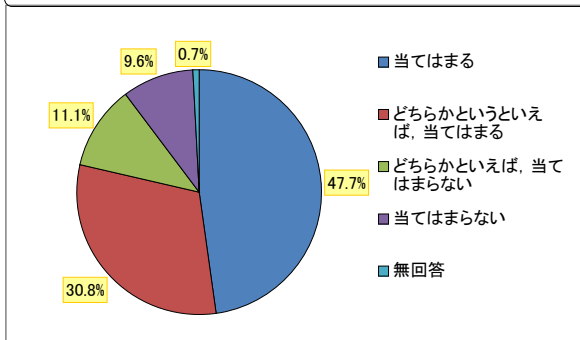
○ 2年生



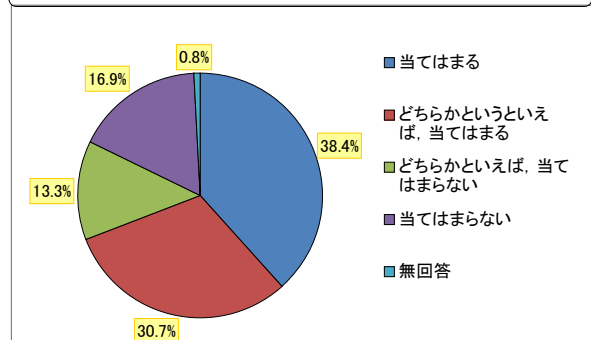
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.4%	31.1%	12.5%	8.4%	0.6%	100.0%
2年生	39.1%	30.4%	15.3%	14.5%	0.7%	100.0%

### ●Q48 部活動に集中できている

○ 1年生



○ 2年生



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	47.7%	30.8%	11.1%	9.6%	0.7%	100.0%
2年生	38.4%	30.7%	13.3%	16.9%	0.8%	100.0%

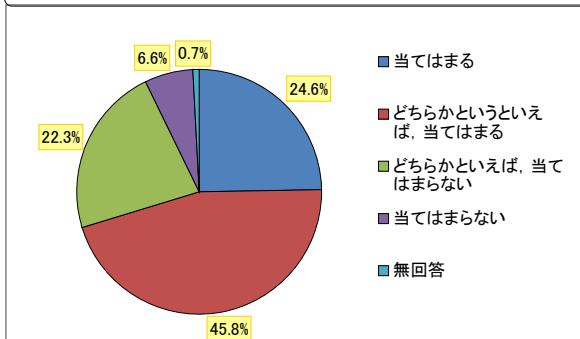
### 【志について】

Q49～Q50

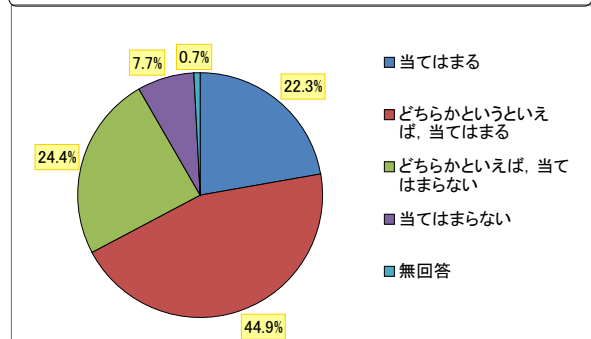
自分の個性、適性が分かっている。自分の特長を伸ばそうとしているは、1年生で75%。2年生で70%。

### ●Q49 自分の個性や適性が分かっている

○ 1年生



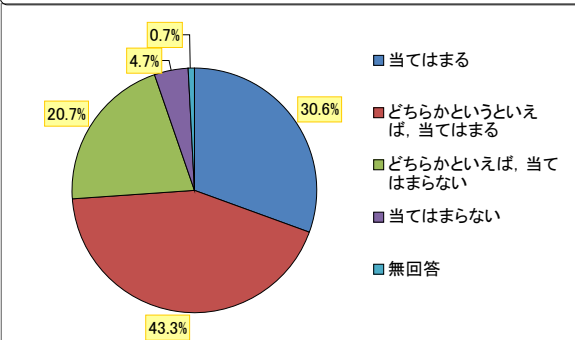
○ 2年生



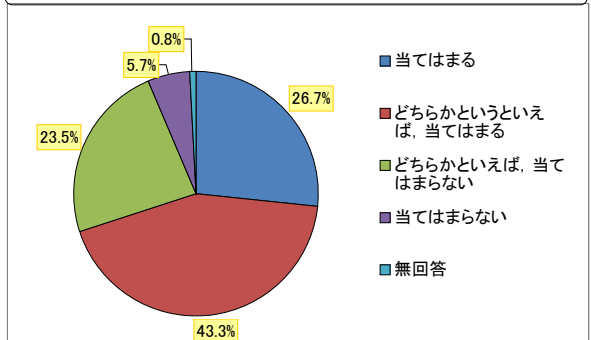
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	45.8%	24.6%	22.3%	6.6%	0.7%	100.0%
2年生	44.9%	22.3%	24.4%	7.7%	0.7%	100.0%

## ●Q50 自分の長所を伸ばそうとしている

○ 1年生



○ 2年生



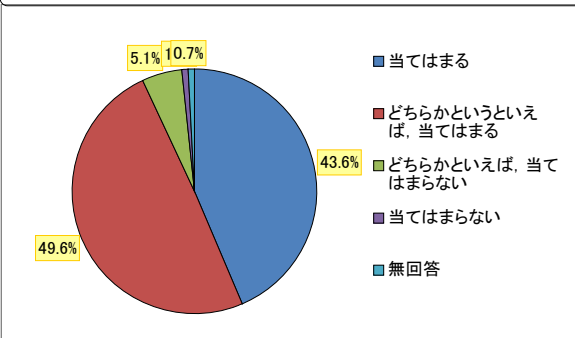
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	30.6%	43.3%	20.7%	4.7%	0.7%	100.0%
2年生	26.7%	43.3%	23.5%	5.7%	0.8%	100.0%

Q51～Q56

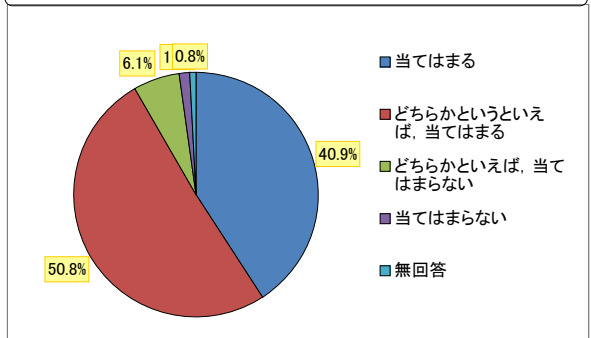
相手の個性や考えを受け入れるようにしている、仲間と力を合わせて活動しようとしている、相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている、時と場に応じた言葉遣いをしている、はいずれも9割以上。一方、自分の考えを相手に的確に伝えている、働くことの意義を理解している、は7割～8割。

## ●Q51 相手の個性や考えを受け入れるようにしている

○ 1年生



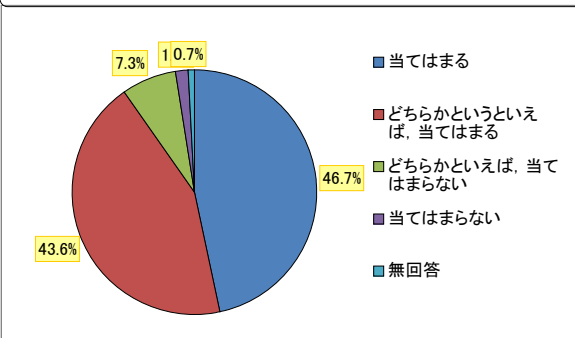
○ 2年生



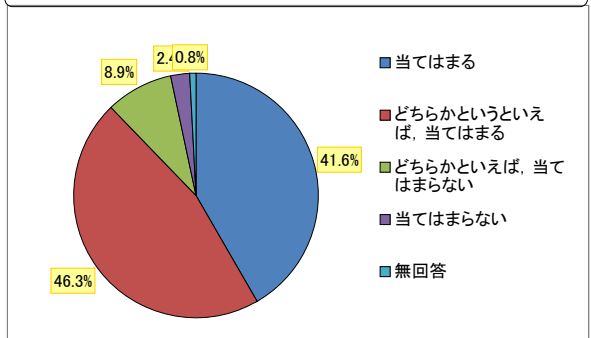
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	43.6%	49.6%	5.1%	1.1%	0.7%	100.0%
2年生	40.9%	50.8%	6.1%	1.4%	0.8%	100.0%

## ●Q52 仲間と力を合わせて活動しようとしている

○ 1年生

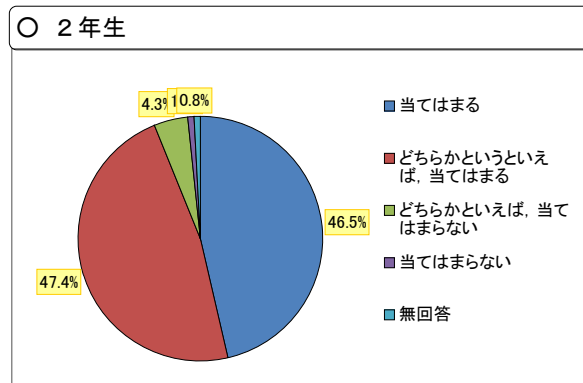
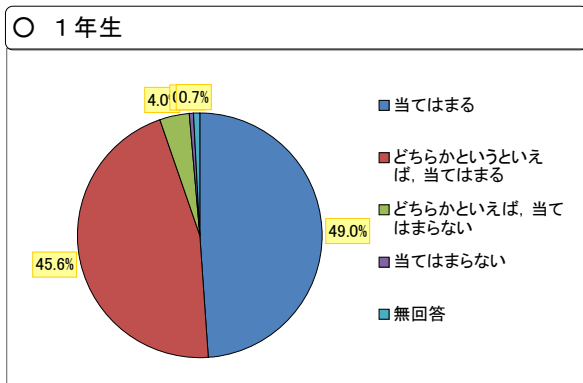


○ 2年生



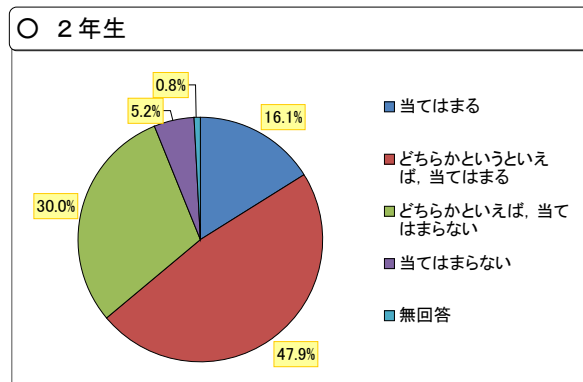
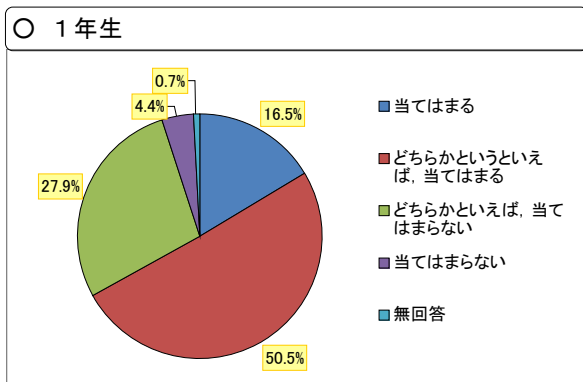
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	46.7%	43.6%	7.3%	1.7%	0.7%	100.0%
2年生	41.6%	46.3%	8.9%	2.4%	0.8%	100.0%

### ●Q53 相手の言葉や意見に耳を傾けるようにしている



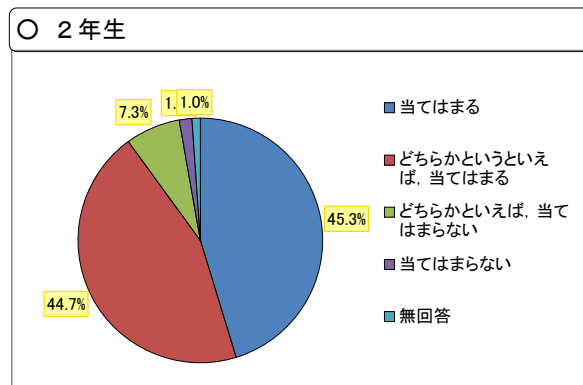
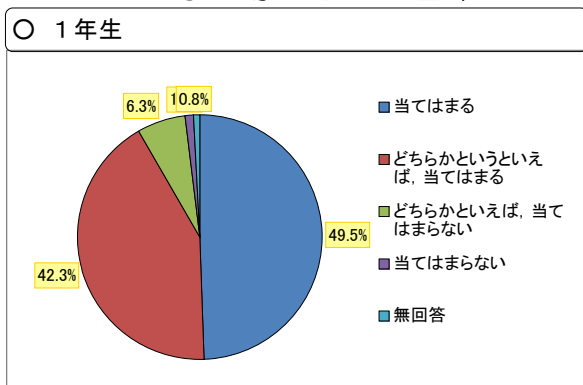
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	49.0%	45.6%	4.0%	0.7%	0.7%	100.0%
2年生	46.5%	47.4%	4.3%	10.8%	0.8%	100.0%

### ●Q54 自分の考えを相手に的確に伝えている



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	16.5%	50.5%	27.9%	4.4%	0.7%	100.0%
2年生	16.1%	47.9%	30.0%	5.2%	0.8%	100.0%

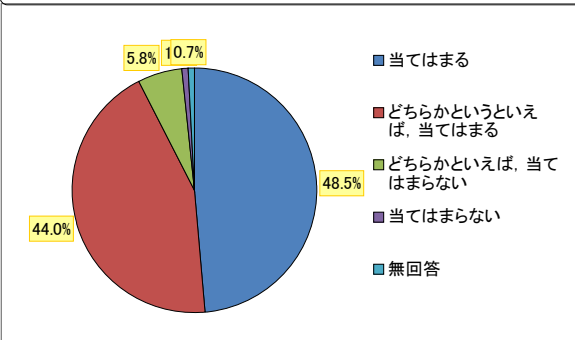
### ●Q55 時と場に応じた言葉づかいをしている



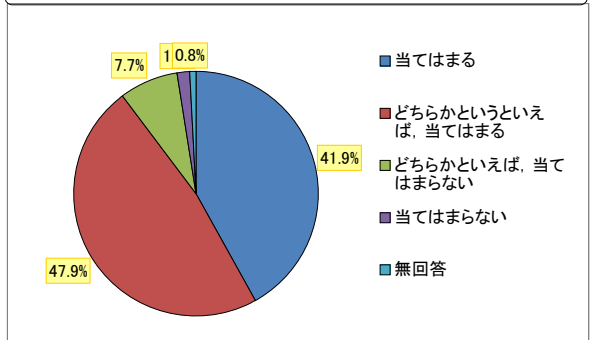
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	49.5%	42.3%	6.3%	10.8%	0.8%	100.0%
2年生	45.3%	44.7%	7.3%	1.7%	1.0%	100.0%

## ●Q56 校則や公共のルール・マナーを守っている

○ 1年生



○ 2年生



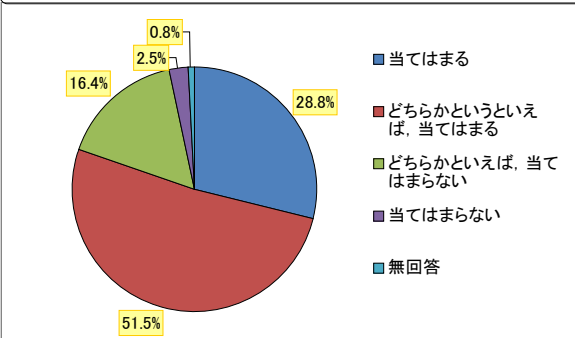
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	48.5%	44.0%	5.8%	1.0%	0.7%	100.0%
2年生	41.9%	47.9%	7.7%	1.7%	0.8%	100.0%

Q57~Q60

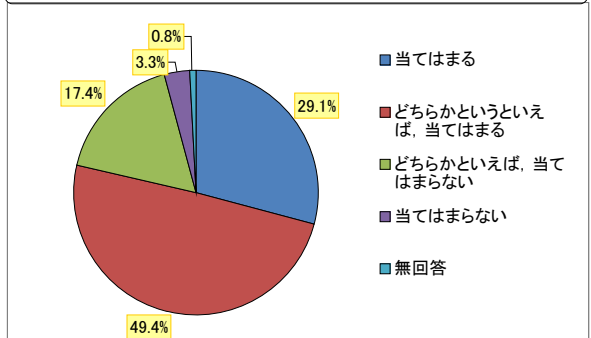
働くことの意義を理解しているは8割, 自分の役割に責任を持って行動しているは9割, クラスを学校の行事等に積極的に取り組んでいるは75%, ボランティア活動や地域の活動に進んで参加しているは25%

## ●Q57 働くことの意義を理解している

○ 1年生



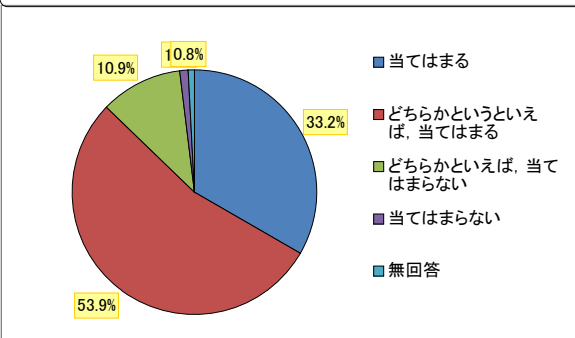
○ 2年生



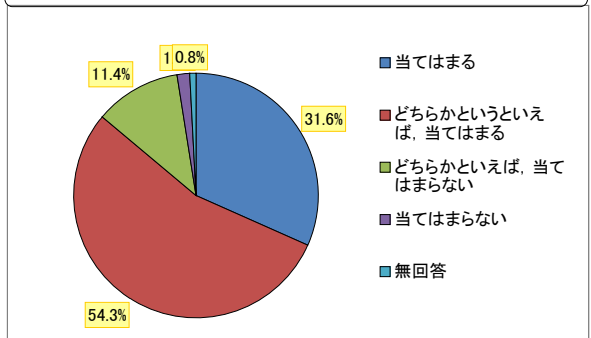
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	28.8%	51.5%	16.4%	2.5%	0.8%	100.0%
2年生	29.1%	49.4%	17.4%	3.3%	0.8%	100.0%

## ●Q58 自分の役割に責任を持って行動している

○ 1年生

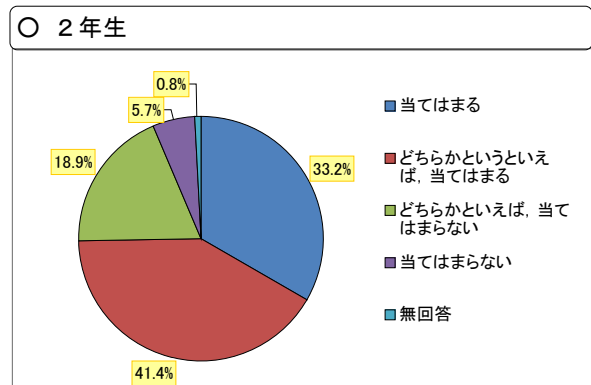
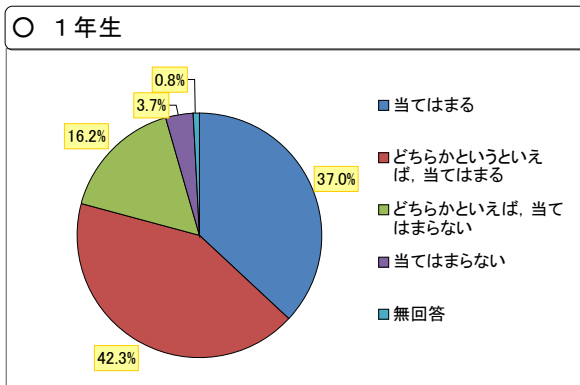


○ 2年生



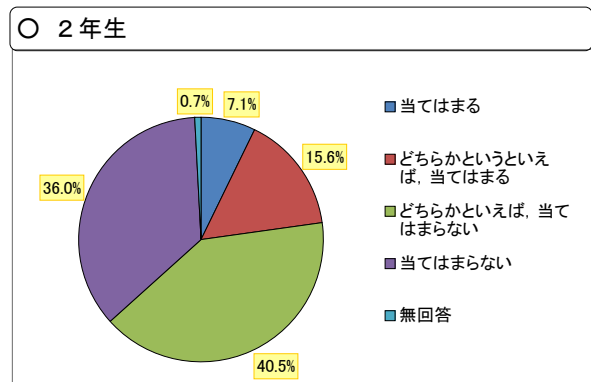
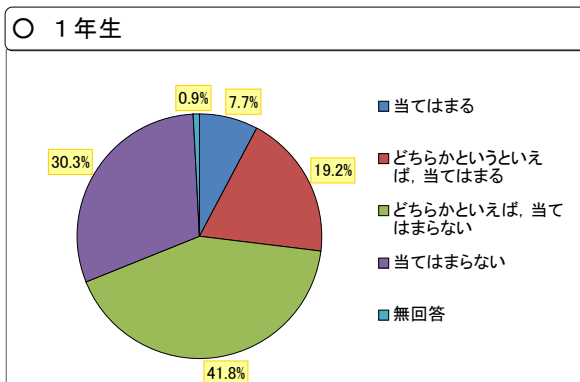
	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	33.2%	53.9%	10.9%	1.2%	0.8%	100.0%
2年生	31.6%	54.3%	11.4%	1.8%	0.8%	100.0%

## ●Q59 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	37.0%	42.3%	16.2%	3.7%	0.8%	100.0%
2年生	33.2%	41.4%	18.9%	5.7%	0.8%	100.0%

## ●Q60 ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している



	1の%	2の%	3の%	4の%	無回答	総データ
1年生	7.7%	19.2%	41.8%	30.3%	0.9%	100.0%
2年生	7.1%	15.6%	40.5%	36.0%	0.7%	100.0%

【まとめ：Q26～Q60】  
 ・ほとんどの項目を通して、約7割～8割の生徒は、肯定的な回答をしており、学校生活だけでなく、基本的な生活について、身体や心のようすについて、勉強について、意欲について、志について等、心の有り様については、概ね良好であると思われる。  
 ・1年生と2年生の比較では、大きな差異は見られないものの、学校生活に関する項目は、1年生より低い傾向が見られる。  
 ・調査項目に対して、震災が大きく影響しているとは判断できないが、各項目を通して、前向きな回答をしていない生徒が1割～2割おり、それらの生徒に対して、面談等を通じた早急な手当てが求められることから、各校での対応が必要である。



## Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

### 【各学校の取組】

授業の質の向上と家庭学習習慣の確立に向けた取組により「確かな学力」の育成を目指す。

#### ○授業改善の推進

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒が半分程度いることから「分かる授業」「考えさせる授業」の実践など授業改善に向けた取組の一層の充実が望まれる。

#### ○家庭学習時間の確保

学習記録簿の活用、家庭学習計画立案の指導、毎日の適度な量と質の宿題、授業における小テストの実施などの工夫により、家庭学習の習慣付けのための取組の継続が望まれる。

#### ○「志教育」の充実、様々な学習機会の提供

授業や総合的な学習の時間など、あらゆる教育場面を効果的に利用しての「志教育」の推進、朝自習や朝読書、放課後学習会など、様々な学習機会を提供する取組の継続が望まれる。

#### ○家庭と学校との連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、個別面談やカウンセリングの実施に加え、家庭と学校とのより一層の連携強化が望まれる。

### 【県教育委員会の取組】

研修会等による教員の資質向上と各種事業の展開により高校生の「学力向上」を支援する。

#### ○調査の継続的实施

学力状況調査、意識調査を継続的にを行い、状況を正確に把握し続ける。

#### ○学力向上施策の推進

授業力向上事業、進学拠点校学力向上事業等の学力向上事業を推進し、各学校における学力向上に向けた取組を支援する。

#### ○教員の資質向上施策の推進

機関研修の充実、校内研修会の開催支援策の充実により、教員の資質向上を図る。

### 【全体的な取組】

